

# 高知県授業づくり Basicガイドブック — 高校授業編 —



平成30年3月  
高知県教育委員会



# はじめに

現在の生徒たちが成人して活躍する頃の社会は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく変化し、予測が困難で、厳しい挑戦の時代を迎えると言われていています。このような社会を生きていくには、高い志をもち、新たな価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要になります。学校教育では、生徒たちが、社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら、よりよい社会や幸福な人生を切り開いていくことができる力を育てていくことが求められます。

次期学習指導要領では、これからの時代に求められる資質・能力を、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の三つの柱に整理しています。生徒たちが、これらの資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「どのように学ぶか」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが求められています。

本冊子では、「高知県高等学校授業づくりガイド」（平成29年9月）に基づき、「高知県授業づくりBasicガイドブック」（平成29年10月）の高等学校版として授業づくりの基礎・基本の一例を提案しています。

「主体的・対話的で深い学び」を通して、生徒がこれからの社会に必要な資質・能力を身に付けられるよう、PDCAサイクルを意識して日々の授業を振り返り、授業力を高めていきましょう。



どんな授業を目指したいの？(第1章)

授業の準備には何が必要？(第2章)

1時間の授業はどう進めればいい？(第3章)

分かりやすい板書ってどんなの？(第3章)

生徒は授業が分かっているのかな？(第4章)

どうすれば次の授業につながる？(第5章)



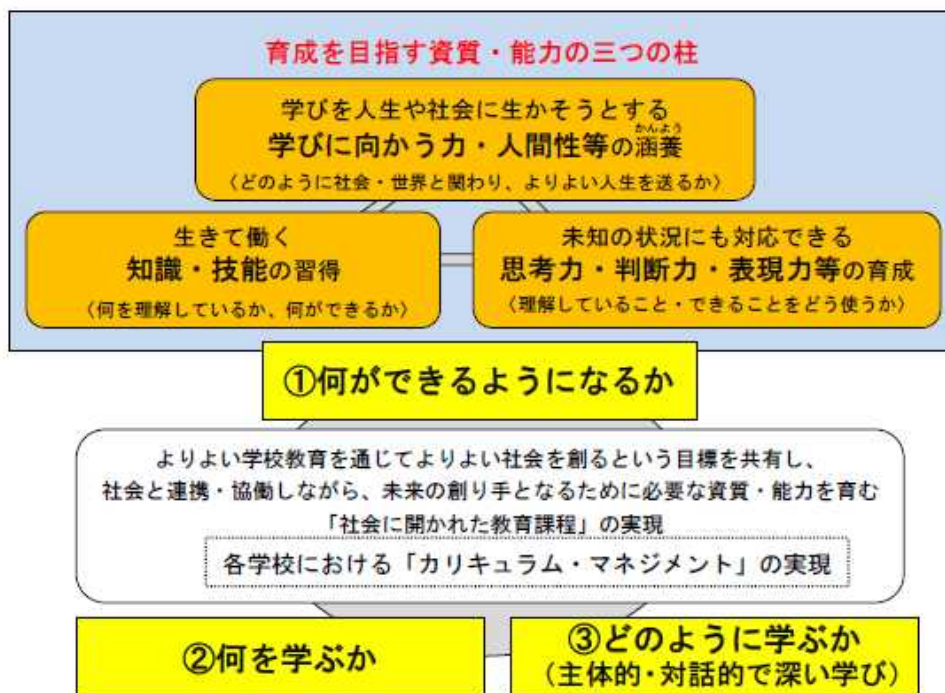
<b>第1章 授業づくりのためのPDCA</b> . . . . .	<b>1</b>
1. 付けるべき力の育成を目指した授業を行うために	
2. これからの授業で大切にしたいこと	
<b>第2章 「Plan」 資質・能力を育む授業計画を考える</b> . . . . .	<b>7</b>
1. 生徒の実態を把握する	
2. 年間指導計画、単元(題材)計画を作成する	
3. 教材研究を深める	
<b>第3章 「Do」 1時間の授業を組み立てる</b> . . . . .	<b>11</b>
1. 1時間の授業をデザインする	
2. 誰もが分かる授業を意識する	
3. 1時間の学びが見える板書をつくる	
<b>第4章 「Check」 学習指導を評価する</b> . . . . .	<b>37</b>
1. 生徒の学習状況を把握する	
2. 校内で授業を参観し合う	
3. 自己の指導方法を振り返る	
<b>第5章 「Action」 次の授業に向けて改善する</b> . . . . .	<b>43</b>
1. 自己の指導方法を見直す	
2. 校内で指導方法を見直す	
3. 指導計画を見直し、付けたい力を確実に付ける	
<b>授業づくりのためのチェックリスト</b> . . . . .	<b>49</b>

「高知県授業づくりBasicガイドブック(平成29年度改訂版)」に掲載されている内容は、文中では「Basic改訂版」で表記し、該当ページは **Basic p.○** のマークで示しています。

## 1. 付けるべき力の育成を目指した授業を行うために

Basic p.4

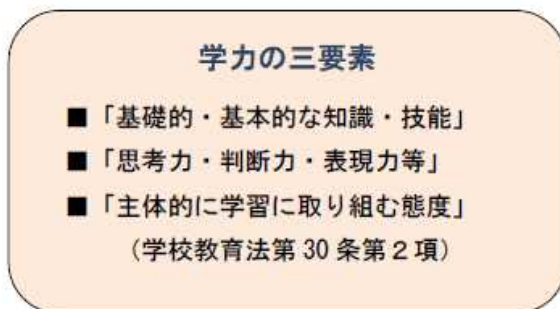
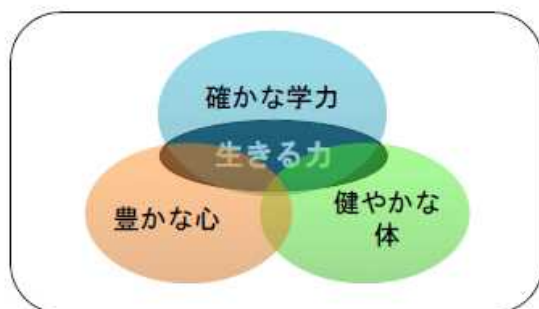
### <育成を目指す資質・能力の三つの柱>



次期学習指導要領では、特に、学ぶことと社会のつながりとを意識し、①「**何ができるようになるか**」という観点から育成を目指す資質・能力を整理し、その育成のために②「**何を学ぶか**」という観点から必要な指導内容等を検討し、その内容を③「**どのように学ぶか**」という観点から、生徒たちの具体的な学びの姿を考えながら授業を構成していくことが求められています。そして、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を三つの柱で示しています。これらの資質・能力は、これまでの学校教育で目指してきた「生きる力」をより具体化したものであり、また「学力の三要素」と対応しています。

このような資質・能力の育成には、**各教科等の枠組を踏まえた資質・能力、学習の基盤となる資質・能力**\*1、**現代的な諸課題に対応していくための資質・能力**\*2等を、学校教育全体を通じて育んでいくことが重要です。

※1 読解力、情報活用能力、物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力、問題発見・解決能力など  
 ※2 健康・安全・食に関する力、主権者として求められる力、新たな価値を生み出す豊かな創造性など



## <これから求められる授業>

生徒たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要です。

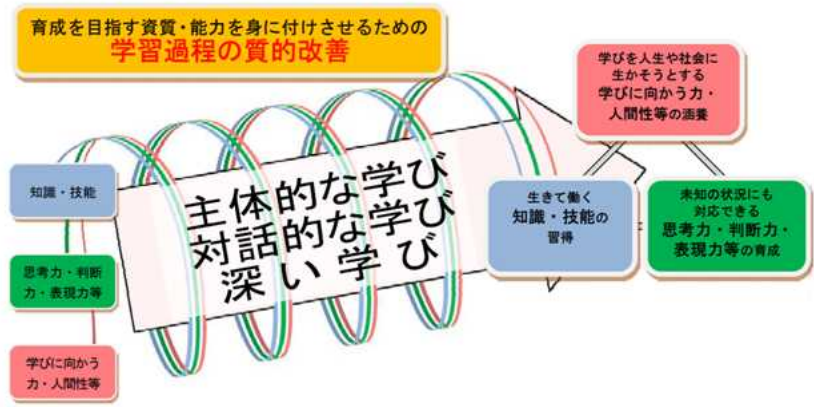
そのため、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められています。その際、各教科等における学びの深まりの鍵となるのが「**見方・考え方**」です。

生徒たちが各教科等における「**見方・考え方**」を働かせながら課題解決に向かう学習過程の改善を図ることで、より質の高い深い学びにつなげ、資質・能力の育成を図っていきましょう。

**【主体的な学び】**  
 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

**【対話的な学び】**  
 生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

**【深い学び】**  
 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び



**見方・考え方とは？**  
 「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のこと。

**各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ**  
 (H28.12 中央教育審議会答申による中学校のイメージ)

「理科」・・・理科の見方・考え方として、「自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。」

「音楽」・・・音楽的な見方・考え方として、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽で形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。」

## <授業の現状と課題>

本県では、授業改善に向けた様々な取組を進めてきましたが、まだ、授業における次のような課題が見られます。

あなたは、このような授業に  
陥っていませんか？

- 教員の経験則に依存した授業で、生徒が主体的に学べていない授業  
(自己流、教員主導、一問一答型授業 等)
- 生徒が、「何をどのように学習するのか」の見通しをもてない授業や、「振り返り」がなく、学びの実感がもてない授業
- 活動はあるが、ねらいに沿った学びのない授業
- 教員が一方的に話すことが多く、生徒が考えたり話し合ったりする時間が少ない授業
- 担任や教科によって授業の流れや学習の仕方が大きく異なり、生徒が学びにくさを感じている授業
- 一部の生徒の意見だけで進み、学習に参加できていない生徒が見られる授業

## よい授業とは？

よい授業には、校種や教科に関わらず、次のような普遍的な要素があります。このような授業を実現し、生徒たちに確かな学力を育むことが教員の使命です。

- \* 単元や1時間単位において付けるべき資質・能力（ねらい）が明確な授業
- \* 生徒が見通しをもち、「何を」「どのように」学ぶのかが分かる授業
- \* 生徒が主体となる授業（全員参加）
- \* 友達と学び合うことで、自分の考えが広がったり深まったりする授業
- \* 生徒が、「分かった!」「できた!」という達成感を得られる授業 等

## 《高知県内の高等学校において生徒と教員から提言された「よい授業」のイメージ》



- \* 授業の目標が明確に提示され、共有ができている授業
- \* 生徒同士の対話と意見の共有がある授業
- \* 生徒が自ら考え主体的に参加する授業
- \* 課題を考える思考力が身に付く授業
- \* キーワードがつかみやすい授業
- \* 授業内容の振り返りがある授業
- \* 楽しさの中に分かりやすさのある授業

よい授業を目指して

日々の授業において、どの教科等でも大事にしたい学び方や学習過程を校内で統一し、教科横断的な指導を行うことで、生徒が見通しをもち、主体的に学びやすい環境が構築されるようになります。また、生徒が学び方を身に付けていくこともできます。このことは、次期学習指導要領における「どのように学ぶか」という学習過程の質的改善と関係しており、各教科等で育成を目指す資質・能力やあらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力の育成にもつながります。

また、生徒が、課題解決に向かって見通しをもちながら取り組み、友達との対話等を通して考えを深め合う授業では、知識・技能をより確かなものとします。

「生徒が受動的になりがちな授業」から、「生徒が能動的になる授業」へと転換を図ることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきましょう。

**【生徒が受動的になりがちな授業】**

教員からの話を聞くことが中心となり、じっくりと考えたり、他者と対話したり、表現したりするなどの活動がない授業



**【生徒が能動的になる授業】**

今日の授業で、何を、何のために行うのか見通しをもち、考え、話し合い、考えを深化・統合し、まとめ・振り返るなどの学習を行う授業

**「主体的・対話的で深い学び」の実現**

校内で共有し、取り組んでいく  
ことが必要です。

《高知県内の高等学校において生徒と教員から提言された「よい授業の実現のために」》



- \* 意識の切り替えを素早くし、きちんと行動すること
- \* 確かな自分の目標をもち、ポジティブな思考を普段からすること
- \* 普段からコミュニケーションをとっておくこと
- \* 生徒がリーダーとなって教え合える雰囲気をつくること
- \* 生徒が自分の意見に自信をもつこと
- \* 生徒が置き去りにならない工夫



## 2. これからの授業で大切にしたいこと

授業で大切にしたい視点として、以下の6つの柱に基づいた授業づくりを提案しています。これらは、どの教科等にも共通した授業づくりの基礎・基本（Basic）であり、すべての生徒が主体的・対話的に学ぶことができるようにするための基本となるものです。学校全体で取り組み、よりよい授業づくりを進めていきましょう。

### 授業づくりの基礎・基本（Basic）

単元等のまとまりを見通した学びの実現

問題解決的な学習

「見通し・振り返り」の学習活動

言語環境の整備と言語活動の充実

生徒指導の三機能を生かした授業づくり

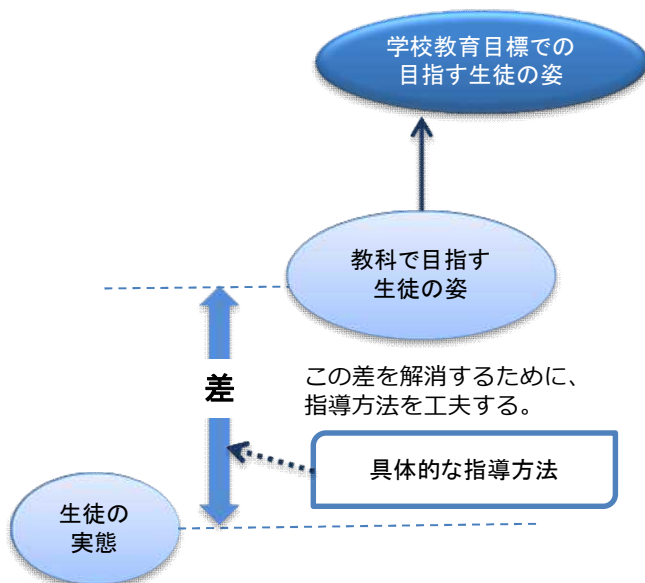
ユニバーサルデザインに基づく授業づくり

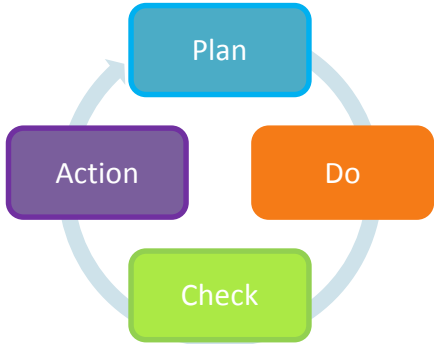


#### 授業づくりのために

生徒の学習状況を把握し、学校教育目標の目指す生徒の姿に近づけるために、教科の指導で達成可能な生徒の姿を具体的に設定しましょう。

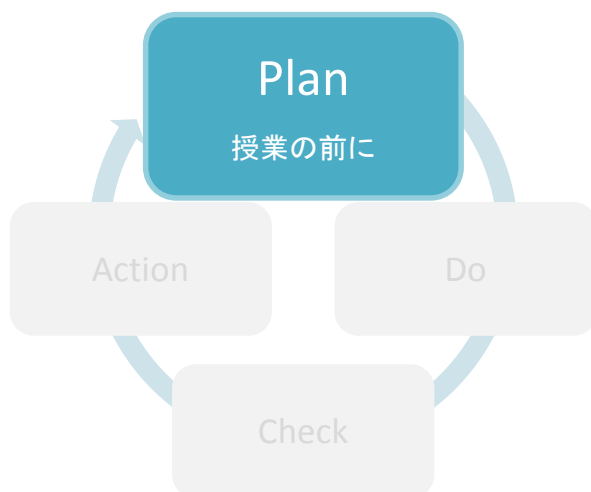
そのうえで、生徒の実態と教科の目指す姿との「差」を解消するために、指導方法を工夫することが授業づくりには重要です。





これから求められる授業やこれからの授業で大切にしたいことを踏まえて、授業づくりに取り組みましょう。  
 生徒に、これから求められる資質・能力を身に付けさせるためにも、授業づくりの際には、次のようなPDCAサイクルをまわすことを意識しましょう。

P ↓	授業の前に	生徒の実態把握	生徒の学習状況の実態を把握しているか。
		年間指導計画の作成	年間指導計画に、どの時期に、どの単元・題材で、どの資質・能力を育成するかが明確になっているか。今までの実践を基に見直したことを踏まえているか。
		教材研究	生徒の資質・能力を育成できるように単元・題材の指導計画を作成し、思考を促す課題や問いを考えているか。
D ↓	授業では	見通す、振り返る活動	学習目標を提示し、見通しをもたせているか。また、学習の振り返りをさせているか。
		学習活動の工夫	生徒の実態に即して、学習活動・学習形態を工夫しているか。
		授業全体に必要なこと	生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的な人間関係）、ユニバーサルデザインの視点を意識しているか。
C ↓	単元終了後・授業後	授業後、単元終了後の生徒の学習状況の把握	生徒の学習状況を観点ごとの評価規準に照らして評価し、生徒の変容を把握しているか。
		校内での授業参観	学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかどうかを客観的に評価しているか。
		指導方法の分析	生徒の学習状況や同僚等の客観的評価から、指導方法を多面的に評価し、課題を分析しているか。
A ↓	次の授業に向けて	指導方法の見直し	生徒の学習状況を改善するために、指導方法を見直しているか。
		校内での授業研究	生徒の学習状況を踏まえ、具体的な指導方法の見直しを同僚等と協議しているか。
		年間指導計画の見直し	他校種・他学年との学習内容の系統性や教科間のつながりを踏まえて、年間指導計画や単元・題材の指導計画を見直しているか。



生徒の実態把握

生徒の学習状況の実態を把握しているか。

年間指導計画の作成

年間指導計画に、どの時期に、どの単元・題材で、どの資質・能力を育成するかが明確になっているか。今までの実践を基に見直したことを踏まえているか。

教材研究

生徒の資質・能力を育成できるように単元・題材の指導計画を作成し、思考を促す課題や問いを考えているか。

# 1. 生徒の実態を把握する

学校教育目標に示されている生徒像を実現するために、各教科等における生徒の実態を把握しましょう。

## ① 学校教育目標や学校経営計画で目指す生徒の姿を具体的にする。

学校の教育活動を通して、どのような生徒を育てて社会に送り出したいのか、全教職員で共通理解をはかり、「目指す生徒の姿」を具体的なものとして共有します。  
各校でまとめられている「学校経営計画」は、毎年、見直しが図られています。

## ② 授業で実施する単元(題材)における生徒の現状を把握する。

明るく、元気な生徒が多い  
学習意欲に欠ける生徒がいる

このような状況だけでは、  
学習内容に対する生徒の  
実態とは言えません。

**実態把握のポイント**

- ・単元(題材)に関わる学習を、生徒はどのように積み重ねてきたのか。
- ・単元(題材)に関する学力の習得状況はどうか。
- ・単元(題材)に対する関心・意欲や知識・理解はどうか。

◇事前アンケート等からみえる興味・関心、生活体験  
◇これまでの学習評価から見える学力の状況  
◇定期テスト等からみえる既習事項の定着状況

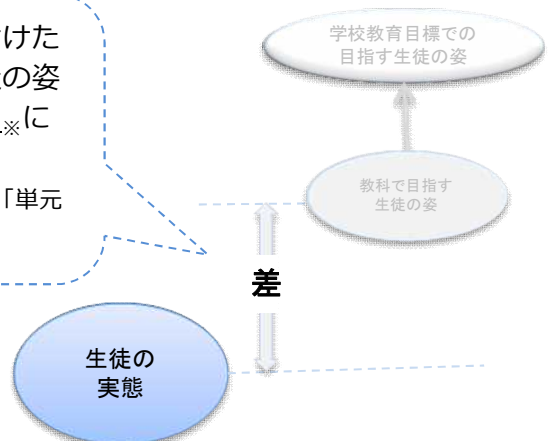
## ③ ①の「目指す生徒の姿」を基に、各教科で目指す生徒の姿を具体的にする。

教科の授業を通して、1年後、3年後などにどのような力が付いてほしいかを、教科の教員で共通理解し、指導に生かしていきます。

一部の教科においては、「学習到達目標(CAN-DOリスト等)」として各校で整理されています。いずれの教科でも学校教育目標を具現化する教科の生徒像を明確にすることが大切です。また、学習到達目標も、毎年、見直しを図っていきましょう。

生徒の実態を踏まえると、単元(題材)で付けた力が明確になるとともに、教科で目指す生徒の姿に近づくための、授業計画、学習指導の手立て※に生かすことができます。

※これは、「年間指導計画」、「学力向上プラン」、「単元計画」としてまとめられるものです。



「年間指導計画」、「学力向上プラン」、「単元計画」を立てる。

## 2. 年間指導計画、単元(題材)計画を作成する

生徒の実態を踏まえ、学習指導要領の目標・内容に基づき、年間指導計画を作成しましょう。年間指導計画では、この時期に、この単元(題材)で、この教材を使って、この力を育成する、ということを確認にすることが大切です。

### <単元等のまとまりを見通した学びの実現>

Basic p.11

#### 年間指導計画

学習指導要領の目標に示されている資質・能力を育成するように、年間の指導計画を立て、見直しをもつ。

- ★「いつ」「どの単元(題材)で」「どの資質・能力を育成するのか」を明確にする。
- ★学年間や単元(題材)間の系統性を意識する。

#### 単元(題材)の指導計画

本単元(題材)の位置付けや生徒の実態を基に、単元(題材)の目標を設定する。

- ★学習指導要領解説を基に、付けるべき資質・能力を確認する。
- ★取り扱う教材の特徴等を押さえる。

#### 指導と評価の計画

本単元(題材)で目指す具体的な生徒の姿を明確にしたうえで、各時間における目標と評価規準を設定する。

#### 本時の指導計画

生徒が主体的に学ぶ学習の流れや手立て等を構想する。

単元(題材)の指導計画には、以下の内容が含まれていることを確認しましょう。

- 単元(題材)の目標
- 単元(題材)の評価規準
- 学習活動の明示
- 指導時間数の配分
- 教材、学習形態、指導方法の工夫
- 評価の時期や方法
- 特別な支援を必要とする生徒、努力を要する生徒への手立てや十分満足できる生徒への発展的な課題

### 3. 教材研究を深める

授業で扱う素材そのものの価値や本質、おもしろさやよさを見つけ、単元（題材）の目標を明確にし、この教材を生徒が学ぶ意義や価値を考えましょう。

そして、教材を使って生徒が学ぶためにはどのような手立てが必要か、各単位時間の学習目標と生徒の姿を思い浮かべながら指導計画を考えていきます。

#### ▶▶教材研究とは

教材を通して、生徒たちにどのような力を付けていくのかの総合的な研究

単元（題材）や1時間の授業で、大切なことを一言で言えるような教材研究になっているか。



**「何のために」、「何を」、「どのように」教えるのか**



『この授業で大切にしたいことは、〇〇です。そのために、〇〇のような手立てや〇〇のような工夫をします。』

深い学びにつながる教材研究のために、**教科の本質**について自身の理解を深めましょう！

教科を通して何を学ぶのか、教科を学ぶ意義を、授業者自身の言葉で表現できるようにしましょう。



教科の学習が生徒の将来にどうかかわるのかといった、キャリア教育の視点での教材研究が、生徒の学習意欲にもつながります。



# 第3章 1時間の授業を組み立てる



見通す、振り返る活動

学習目標を提示し、見通しをもたせているか。また、学習の振り返りをさせているか。

学習活動の工夫

生徒の実態に即して、学習活動・学習形態を工夫しているか。

授業全体に必要なこと

生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的な人間関係）、ユニバーサルデザインの視点を意識しているか。

# 1. 1時間の授業をデザインする

## <問題解決的な学習>

Basic p.13

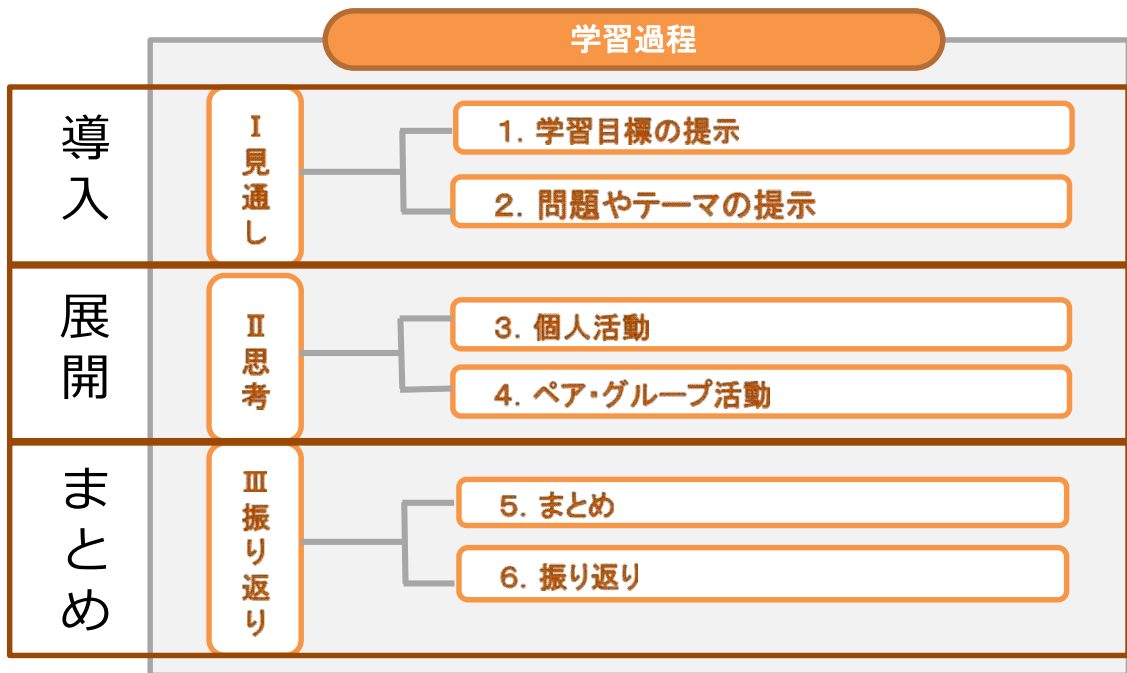
次期学習指導要領案では、学習の基盤となる資質・能力として「問題発見・解決能力」があげられ、次のように示されています。

### ◆教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

ここでは、「問題解決的な学習」を意識し、導入・展開・まとめにおける学習過程を提案しています。学習過程を細分化し学習活動を明確にすることで、生徒が見通しをもちながら主体的に学習を進めることができるようになるとともに、教員が、より細かな支援や手立てを行うことができるようになります。

このような学習過程を参考にし、授業のねらいに応じた学習活動を工夫することが大切です。



教科や発達段階、また、授業のねらい等によって、必ずしもこの流れになるとは限りません。それぞれの学習活動の意図を明確にし、仕組んでいくことが重要です。

授業のねらいにより、1単位時間における中心活動となるところも変わってきます。単元における本時の位置付けを考え、授業のねらいに応じた適切な時間配分で授業を構成しましょう。

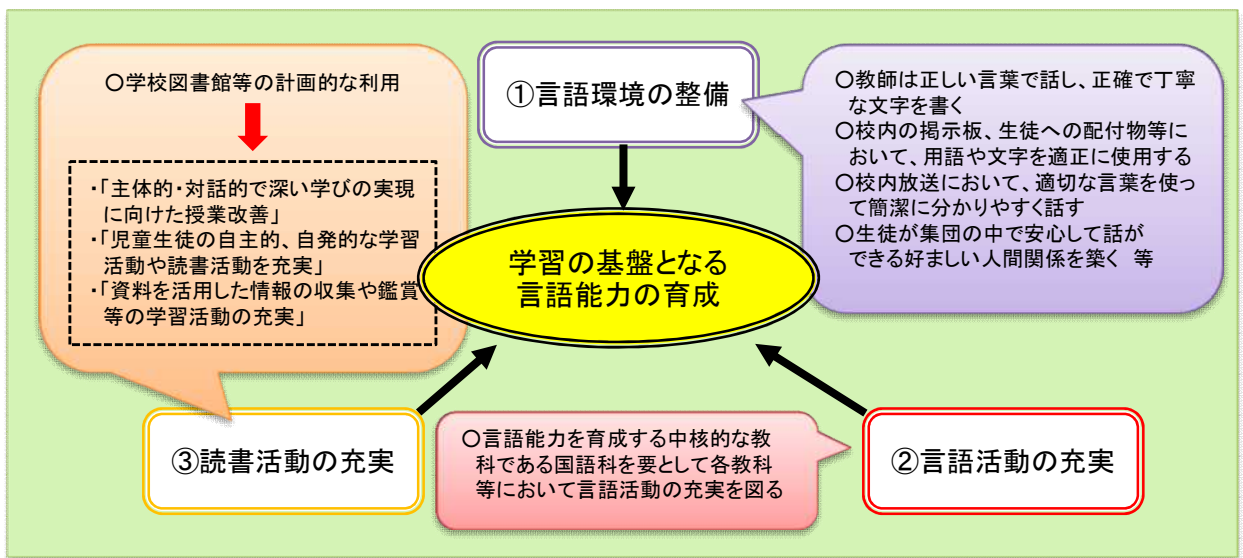


## ▶▶ 学習の基盤となる言語能力の育成

言語能力はすべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものであり、教育課程全体を通じて育成を図っていくことが重要です。

言語能力の育成を図るために、各学校においては、①学校生活全体における言語環境を望ましい状態に整えておくこと、②中核的な教科である国語科を要として、各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図ること、③読書を通じて、多くの語彙や多様な表現、新たな考え方等に出会うことができるよう、読書活動の充実等に取り組むこと等が大切です。

各学校の実態に応じてこれらの活動の充実を図り、生徒たちの確かな言語能力の育成を図りましょう。



## ▶▶ 国語科と他教科等の言語活動の関連

国語科では、学習指導要領において、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の資質能力をどのような言語活動を通して育成するかという言語活動例が示されています。また、他教科等においても、教科の特質に応じた言語活動が位置付けられており、国語科との関連を図りながら教科横断的に取り組んでいくことが大切です。

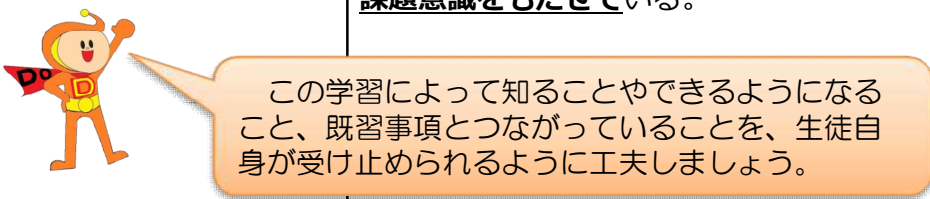
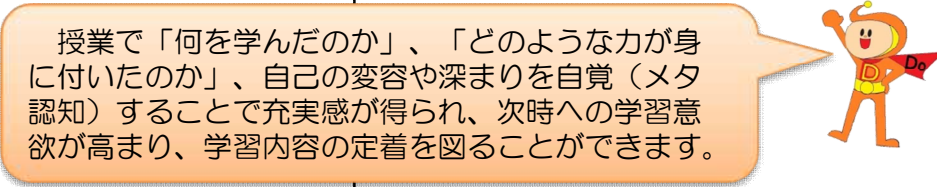
国語科を要として各教科等において計画的・継続的に言語活動の充実を図り、生徒たちの確かな言語能力の育成を図っていきましょう。

## <「見通し・振り返り」の学習活動>

Basic p.14

「主体的な学び」の実現に向けた授業改善を進めるに当たっては、生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、**見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげること**などが重要です。

「見通し・振り返り」の学習活動を充実させることで、学習内容の確実な定着が図られ、各教科等で目指す資質・能力の育成にもつながります。

1時間の授業の流れ	生徒の姿	教師のはたらきかけ
<b>導入</b> 学習目標の提示 生徒が授業で何をどのように学ぶかを把握できるように、学習の見通しをもたせる	<input type="checkbox"/> 本時の学習目標をしっかりとつかんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■単元の指導計画に基づき、<b>本時の学習目標や評価規準・評価方法を的確かつ具体的に設定している。</b></li> <li>■本時の学習目標を生徒に提示している。</li> <li>■厳選した発問や指示等によって、<b>生徒に明確に学習目標を把握させ、学習意欲を高め、課題意識をもたせている。</b></li> </ul>
<b>展開</b> 学習活動・学習形態の工夫 教える場面と思考させる場面を学習目標に応じて組み立てる	 <p>この学習によって知ることやできるようになること、既習事項とつながっていることを、生徒自身が受け止められるように工夫しましょう。</p>	
<b>まとめ</b> 学習状況の確認 生徒が学習したことを自覚できるように、学習を振り返らせる	<input type="checkbox"/> 本時の学習目標を達成し、学習内容が定着している。 <input type="checkbox"/> 本時の学習目標を意識して、自分の学習の高まりやそうなった要因などを確認している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■<b>学習目標に対して、何を学んだのか、生徒自身が振り返る場を設定している。</b></li> <li>■生徒の既習事項と本時の学びを関連させて、学びをメタ認知※できる視点等を意図的に示している。</li> <li>■本時の学習や次時の学習を踏まえた学習の見通し（家庭学習を含む）を提示している。</li> </ul>
	 <p>授業で「何を学んだのか」、「どのような力が身に付いたのか」、自己の変容や深まりを自覚（メタ認知）することで充実感が得られ、次時への学習意欲が高まり、学習内容の定着を図ることができます。</p>	

※中央教育審議会答申では、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力などが「メタ認知」に関するものとされている。

「Basic改訂版」では、それぞれの学習過程における具体的な活動や手立て等について示しています。それぞれの活動の手立ての**目的・意図（なぜ、何のために必要なのか）を**考えながら、ねらいに応じて取り入れてください。

Basic p.22~

▶▶ 「見通す」学習活動の手立て

1時間の授業の流れ
<p><b>導入</b></p> <p>生徒が授業で何をどのように学ぶかを把握できるよう、学習の見通しをもたせる</p>
<p><b>展開</b></p> <p>教える場面と思考させる場面を学習目標に応じて組み立てる</p>
<p><b>まとめ</b></p> <p>生徒が学習したことを自覚できるよう、学習を振り返らせる</p>

前時の振り返り

ポイント

- ノートや掲示物でこれまでの学習を想起させる。
- 単元（題材）における本時の位置付けを確認する。

●生徒が、単元における学びのつながりを意識して学習に向かうために、本時の目標提示の前に、必要に応じて前時の振り返りを行います。

- ・ノートに記述した内容や掲示物を使って、これまでの学習を振り返らせ、本時の学習目標につなげていきます。
- ・各自が自分の振り返りを読み上げたり隣の人に伝えたりすると、全員が前時の学習と本時の学習のつながりを意識しやすくなり、主体的に本時の学習に向かえるようになります。

学習目標の提示

ポイント

- ねらいを達成した生徒の姿をイメージする。
- 生徒が「何を学ぶのか」を明確に把握できるようにする。
- 全員が学習の見通しを立てることができているかを確認する。

●「学習目標」の設定は、本時で身に付けるべき力を育成するために、生徒自身が、今日の学習で「何が・どのようにできればよいのか」、「何が分かればよいのか」等のゴールイメージをもちながら学習できるようにするためのものです。

- ・生徒にとって分かりやすい具体的な言葉で設定しましょう。

問題やテーマの設定

ポイント

- 生徒が問いをもてるような課題を提示する。
- 提示の仕方を工夫する。

●本時の学習課題を提示します。

- ・「前時の振り返り」等を生かしながら、本時のねらいに迫ることができるような問題やテーマを提示します。
- ・教科書の問題、写真やグラフ等の資料、演示実験、ICT機器の活用など、教科や学習内容によって、提示する問題の内容や提示の仕方は様々です。
- ・生徒の問い（驚き・疑問・既習事項との違い等）を引き出す問題やテーマを提示します。
- ・生徒たちにとって解決したい問題、解決の必要性が感じられる問題となるよう、発問等を工夫することが大切です。

学習課題をイメージしやすくしたり、問いを考えさせる資料として提示したりするなど、ICT機器は効果的に活用できます。活用の際には、活用目的に応じて、生徒にとって見やすい大きさ、明瞭さを工夫しましょう。



1時間の授業の流れ	
導入	生徒が授業で何をどのように学ぶかを把握できるよう、学習の見通しをもたせる
展開	教える場面と思考させる場面を学習目標に応じて組み立てる
まとめ	生徒が学習したことを自覚できるよう、学習を振り返らせる

まとめ

ポイント

- 生徒の言葉でまとめる。
- キーワードを使ってまとめる。
- 本時の学習課題との整合性を図る。

- 本時の「学習課題」に対するまとめを行う活動です。本時の「学習課題」と「まとめ」は、「問いと答え」の関係になります。
- ・ 教員の言葉でなく、生徒から出た言葉でまとめられるよう支援をしましょう。（「まとめの書き出しの言葉」やキーワードを提示するとよい）

振り返り

ポイント

- 視点を示して振り返らせる。
- 全員が「何を学んだのか」認識できるようにする。

- 「振り返り」をすることは、今日の授業における自分の学びや成長への気付きを促すことになり、より深い学びへとつながります。また、自己の学習への充実感が得られ、学習意欲の向上へとつながります。
- ・ 視点を明確にして振り返らせることが大切です。
- ・ 自分の振り返りをノート等にしっかりと書かせましょう。
  - \* 「〇字以内で書く」、「キーワードを使って書く」等の条件を与えて書かせることで、思考力・判断力・表現力等の育成にもつながります。
- ・ 自分の振り返りを隣の人に伝える場等を設けることで、生徒全員が、今日学んだことをしっかりと認識できるようになります。

<振り返りの視点>

- 「今日の学習目標に迫ることができたか」（自己の学びの視点）
- 「友達の考えから学んだこと」（対話的な学びの視点）
- 「新たな疑問ややってみたいこと」（主体的な学び・次の学びにつなげる視点） 等

単元（題材）を通して、生徒自身が自分の学びを振り返ることができるシートの事例です。教員も生徒一人一人の状況をすぐに確認でき、次の授業でフォローできます。

日付	授業の内容	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

( )年( )月( )日 氏名( )							
日付	授業の内容	分かったこと、気づいたことなどを記入しましょう。	自己評価				教員欄
			興味・関心	理解度	態度・やる気		
			1	2	3	4	
			興味・関心……( )	理解度……( )	態度・やる気……( )		
			<忘れ物>				

## <学習活動・学習展開の工夫>

1時間の授業の流れ	生徒の姿	教師のはたらきかけ
<p style="text-align: center;"><b>導入</b></p> <p style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">学習目標の提示</p> <p>生徒が授業で何をどのように学ぶかを把握できるよう、学習の見通しをもたせる</p>		
<p style="text-align: center;"><b>展開</b></p> <p style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">学習活動・学習形態の工夫</p> <p>教える場面と思考させる場面を学習目標に応じて組み立てる</p>	<p>□学習の見通しをもって、学習課題に主体的・意欲的に取り組んでいる。</p>	<p>■学習目標を実現するために、<b>生徒の実態に即して、意図的・効果的に学習活動を仕組み</b>、適切な学習形態を工夫している。</p> <p>■学習目標に照らして生徒一人一人の学習状況をきめ細かに見取り、個に応じた指導をしている。</p>
<p style="text-align: center;"><b>まとめ</b></p> <p style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">学習状況の確認</p> <p>生徒が学習したことを自覚できるよう、学習を振り返らせる</p>		



押さえるべきポイントを絞って知識・技能を学ばせます。ここで学ばせた知識・技能を基に、思考・判断・表現につなげていきます。

**教える場面**では、知識・技能を分かりやすく習得できるように、**思考させる場面**では、教科書や他者から得た知識も活用していくように工夫しましょう。

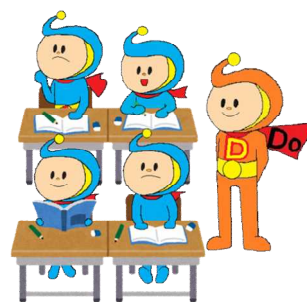
## 個人活動

## ポイント

- 個人での思考の時間を十分確保する。
- 考えの根拠や理由を書かせる。
- 学習目標を意識し、机間指導で個と全体の状況を見取り、場合に応じて賞賛やアドバイスをする。
- 困っている生徒がいる場合は、教え合う場を設定する。

● 「個人活動」とは、本時の問題やテーマに対して、  
生徒一人一人が個人で思考する活動です。

- ・スムーズな個人活動ができるよう、「どのように進めていけばよいのか」、手順や方法を生徒に伝えます。
- ・教員が一斉に講義形式で進める場合でも、生徒の思考につながるような発問を心掛けましょう。
- ・「ペア・グループ活動」へと展開を続ける場合は、「個人活動」でノート等に自分の考えを書かせ、それをもとに話し合いをさせましょう。



## ＜机間指導＞

机間指導は、生徒の学びの状況を確認したり、次の授業展開の構想を練ったりする重要な時間です。

机間指導を行う際は、本時の学習のねらいに基づく学習活動の意図や到達点を教員がしっかりともっておくことが大切です。ねらいを明確に意識することで、ねらいに沿った見取りと支援ができ、次の展開に生かすことができます。

## ■ 机間指導のポイント

## ＜個の思考の過程を見取る＞

- ・生徒の考えの良い所などを把握し、積極的に認めたり褒めたりする。
- ・「なぜそう思ったのか」、「具体的に言うと、どういうことか」、「まとめると、どういうことか」等、生徒の思考を広げたり、焦点化させたりするような声掛けをする。

## ＜全体の学習状況を見取る＞

- ・課題への反応・理解等について、全体の傾向を把握したうえで、十分でない場合は、補足の説明等を行う。
- ・生徒の思考のパターンを見取り、取り上げる意見を決める。  
(机間指導の際に、記録できるような様式を準備しておく)
- ・次の学習展開を構想する。

## ペア・グループ活動

## ポイント

- 友達の考えの良さを褒めたりアドバイスをしたりする。
- 友達の考えを記録する（自分とは違った考え等）。
- 話し合いの目的と手順を明確に伝える。
- ホワイトボードや思考ツールで意見を可視化する。

- 「ペア・グループ活動」とは、「個人活動」で個人が考えたことや疑問に思ったこと、分からなかったことなどを出し合って友達と交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする活動です。
- ・ 「ペア」、「グループ」等の学習形態がありますが、どの学習形態で行うのかは本時の学習目標に合わせて選択し、意図をもって取り入れることが大切です。
- ・ 「活動の目的」や「手順」を理解させ、本時の学習目標を意識しながら主体的に活動できるようにします。

## &lt;ペア活動&gt;

- 互いに考えたことを説明したり、相談したりする情報交換の活動です。短時間で確かめ合ったり、伝え合ったりするときにいきます。
- ・ 聞き手を見て考えを伝え合う。
- ・ 相手の意見を聞いて、「気付いたこと」、「自分の考えにはなかったこと」等をノートに記録する。
- ・ 相手の考えの良かったところを伝える。等

## &lt;グループ活動&gt;

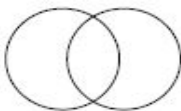
- 互いの考えや解決方法等について、共通点や相違点を確認し合う活動です。
- ・ 司会者や記録者などの役割をもたせ、スムーズに活動を進められるようにする。



## &lt;思考ツール&gt;

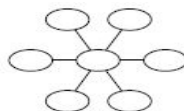
- 様々な思考ツールを活用すると、考えを整理することができたり、互いの考えの共通点や相違点等を明らかにしたりすることができます。この他にも様々な方法がありますが、活用する際には、ねらいや学習の目的に合わせて取り入れることが大切です。

## ベン図



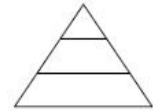
<比較する・分類する>  
二つのものを比べて、差異点や共通点を考えて、整理するときに役立つ。

## イメージマップ



<広げてみる>  
頭の中のイメージを表に出してアイデアを広げるときに役立つ。

## ピラミッド・チャート



<抽象化する>  
多くの情報の中から、重要なものを絞り込むときに役立つ。

## &lt;ホワイトボード&gt;

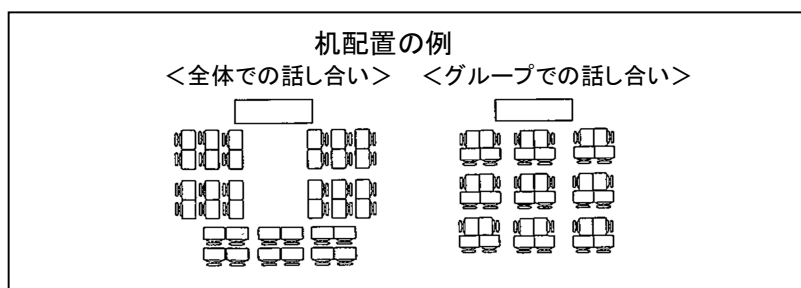
- 個人やグループでまとめた意見をホワイトボードに書いて交流します。単に発表を聞かせるだけでなく、意見交流を仕組むことで共通点や相違点に気付かせ、学習が深まるようにします。
- ・ 明瞭・正確・簡潔に発表させる。
- ・ 共通点、相違点、自分の考えとの比較等の視点をもたせる。
- ・ 気付きを促すために、まず、貼り出したボードを眺めさせる方法などもある。

**ポイント**

- 発表の仕方や聞き方を指導する。
- 生徒の意見を構造化しながら板書する。
- 意見の整理や修正を行う。

**<全体での発表>**

- 個人やグループでの意見をクラス全体で交流することで、さらに考えを深め、本時の学習課題・目標の達成に向かう活動です。
- ・ 共通点や相違点、類似点等を見つけさせたり、意見をつなげさせたりしながら、生徒主体に活動できるようにする。
- ・ 生徒の意見は、教員が板書し、構造的な板書になるようにする。
- ・ 話し合いがしやすいように机の配置を工夫する。
- ・ 教員対生徒にならないよう、教員の立ち位置等を工夫する。



**<発表の仕方>**

- 生徒が発表するときには、自分の立場を明確にした発表が行えるようにします。そうすることによって、他者と自分の考えの違いを意識することになり、考えがより明らかになります。
- ・ 「賛成なのか」、「反対なのか」、「どこが同じで、どこが違うのか」等の視点で意見を述べる。
- ・ 自席で発表すると教員対生徒の構図になりやすいため、教室の前、後ろ、左右などの場所で、聞き手の方を向いて発表する。

**<聞き方（反応）>**

- 発表から考えを深めるためには、「聞き手の反応」が大切な要素になります。反応は、聞き手が授業に参加する意識を高めることにもつながります。
- ・ 友達の意見を聞くときには、自分の考えと「同じところ」や「違うところ」を明らかにしながら聞く。
- ・ うなずく等の反応をする。「反応」は、相手に「聞いていますよ」というメッセージを送ることになる。

**<教員による修正>**

- 話し合いの方向が本時の学習課題・目標からそれている場合には、教員による修正が必要です。
- ・ 生徒に気付かせるよう、切り返しの発問をする。
- ・ 本時の学習課題・目標との整合性を意識させる。 等



## ▶▶ 1時間の指導の手立て例

学習目標に対応した観点別評価により、生徒の学習状況を見取る場面と方法も考えよう。



授業では、「基礎・基本の知識や技能を習得させたい」「習得した知識や技能を活用して思考を深めさせたい」などのねらいに応じて学習過程を工夫しましょう。

## ◆指導の手立て例を取り入れた1時間の授業デザイン例◆

指導の手立て例	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の振り返り</li> <li>学習目標の提示</li> <li>生徒との目標の共有</li> <li>単元の中の本時の位置付けを確認</li> <li>本時の流れの提示</li> <li>予習や宿題の確認</li> <li>イメージをつかむ視聴覚教材の活用など</li> </ul>
展 開	<p>■主に、教師が<b>教える場面</b>では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>端的な説明</li> <li>コツを押さえた示範</li> <li>学習目標に迫る質問・発問</li> <li>視覚的に理解するためのICTの活用</li> <li>気付きを与える視聴覚教材の活用</li> <li>教師と生徒の対話など</li> </ul> <p>■主に、生徒に<b>思考させる場面</b>では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標に迫る課題</li> <li>生徒同士の対話</li> <li>理解を深める応用問題</li> <li>思考をまとめるICTの活用</li> <li>思考を整理する思考ツールの活用</li> <li>発表・プレゼンテーションの工夫など</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことの自己評価</li> <li>できるようになったことの相互評価</li> <li>学習目標の実現に対する的確な評価</li> <li>振り返りの発表</li> <li>学んだことと社会とのつながりに気付かせるまとめ</li> <li>学んだことと今までの学びとのつながりに気付かせるまとめ</li> <li>次への意欲につなげる次時の予告など</li> </ul>

基礎・基本の知識の習得を目指した展開	思考力・判断力・表現力の向上を目指した展開
<p><b>1. 導入</b></p> <p>既習事項の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの学習で、分かっていることと分かっていないことをメタ認知させる。</li> </ul> <p>生徒と目標の共有</p> <p>本時の流れの提示</p>	<p><b>1. 導入</b></p> <p>既習事項の振り返り</p> <p>生徒と目標の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この1時間の学びによって、できるようになることをイメージさせる。</li> </ul> <p>本時の流れの提示</p>
<p><b>2. 展開</b></p> <p><b>教える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>復習と新たな知識の伝授</li> <li>既習事項と関連させた説明</li> <li>教師と生徒との対話</li> <li>要点を押さえ、分かりやすく説明する。</li> <li>今までの学習内容を踏まえながら説明する。</li> <li>生徒と対話しながら理解を確認していく。</li> </ul> <p><b>思考させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の理解を確認</li> <li>生徒同士の対話</li> <li>理解を確認するために、生徒同士で説明させたり、類似問題を解かせたりする。</li> <li>理解できていない場合は、全体で確認する。</li> </ul>	<p><b>2. 展開</b></p> <p><b>思考させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を活用する課題の提示</li> <li>学習目標に迫る課題</li> <li>思考を広げる場の設定</li> <li>生徒同士の対話</li> <li>思考ツールの活用</li> <li>話し合うことを明確にし、生徒同士で意見を交流させる。</li> <li>思考ツールを活用し、課題を整理する。</li> <li>思考したことを判断し、表現する場の設定</li> <li>思考をまとめ、表現する</li> <li>相手意識をもって、伝えたいことをまとめさせる。</li> </ul>
<p><b>3. まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解できているかの確認</li> <li>学んだことの自己評価</li> <li>本時で分かったこと、分からなかったことを自分の言葉で書かせる。</li> <li>次への意欲につなげる次時の予告</li> <li>次時の学習内容へつなげ、復習や予習を促す。</li> </ul>	<p><b>3. まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者から得た気付きの確認</li> <li>学んだことの自己評価</li> <li>本時で思考が深まったことや新たに疑問に思ったことを自分の言葉で書かせる。</li> <li>次への意欲につなげる次時の予告</li> <li>次時の学習内容へつなげ、復習や予習を促す。</li> </ul>

◆指導の手立て例を取り入れた1時間の授業デザイン例◆

授業では、「基礎・基本の知識や技能を習得させたい」「習得した知識や技能を活用して思考を深めさせたい」などのねらいに応じて学習過程を工夫しましょう。

基礎・基本の知識や技能の習得を目指した展開【国語】



**教 科** 国語「国語総合」  
**単 元** 水の東西  
**対象学年** 1年生  
**目 標** 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。

指導のねらい

高校で初めて学習する評論文です。評論文は、筆者が自分の考えることを筋道立てて述べている文章です。文章の言葉を注意深く読んで、筆者の述べたいことを正しく読み取ることを指導します。

単元計画

時数	学習内容
1 (本時)	日本人にとって「鹿おどし」は流れるものを感じさせる存在だという筆者の主張を反復（言い換え）に留意しながら読む活動を通して、理解する。
2	ニューヨークで見た「鹿おどし」への違和感と人々をくつろがせていた噴水の様子から、筆者が欧米の噴水をどのように考えたか、言い換えや比喻を整理してまとめる。
3	あえて言葉で説明されていないことでも、文章から汲み取って論の流れをたどり、日本人が噴水を作らなかった理由を考える。
4	西洋人とは異なる日本人の感性を理解し、「鹿おどし」が「日本人が水を鑑賞する行為の極致を現する仕掛け」だと言える理由を考える。
5	言い換えと対比を用いて、自分の考えを読み手に強く主張できる文章を書く。

本時の展開例

	指導の手立て	生徒の学びにつながるポイント
導入	<p><b>見通しをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本時の活動内容の確認</li> <li>▶ 生徒と目標の共有</li> </ul>	<p>生徒が視覚的に分かるように、本時の目標を板書します。</p>
展開	<p><b>教える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 範読</li> <li>▶ 既習事項の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範読を聞きながら、既習事項である指示語は丸で囲み、接続語はカッコでくるように指示する。</li> </ul> </li> <li>▶ 教師と生徒との対話                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冒頭の一文から、筆者がこれから述べようとしていることを考えさせます。</li> <li>・ 鹿おどしの「愛嬌」について、どのように表現されているか読み取らせる。</li> <li>・ 鹿おどしを感じさせる「人生のけだるさ」について、「愛嬌」との対比に留意して、どのように表現されているか読み取らせる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>指示したことを生徒が作業できるように、十分に間をとった範読をします。言葉のつながりに留意しながら、文章を丁寧に読み取らせませす。</p>
	<p><b>思考させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 生徒同士の対話                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者が、鹿おどしに「時のながれ」を感じる理由を考えさせる。</li> <li>・ 筆者の考える日本人にとっての鹿おどしについて、「鹿おどしは……」につながる形でまとめさせる。（個人→ペア）</li> <li>・ 「せきとめ、刻むこと」が「かえって流れてやまないものの存在を強調しているといえる」の理由を考えさせる。（ペア）</li> </ul> </li> </ul>	<p>冒頭の一文から、筆者がこれから述べようとしていることを考えさせます。</p> <p>話題の中心となるものを把握させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指示語の指す内容を理解させる。</li> <li>・ 意味の対立する言葉を見付け、対比しながら述べられていることに注目させる。</li> <li>・ 言い換えが強調表現であることを確認させる。</li> </ul>
	<p>【評価】 指示語・言い換えに留意して、日本人にとっての「鹿おどし」についてまとめている。</p> <p>※【読む能力】をノートの記事から確認する。</p>	
まとめ	<p><b>把握する</b>      <b>振り返らせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学んだことの自己評価</li> <li>▶ 次時の予告</li> <li>・ 学習を振り返らせ、次時の確認をする。</li> </ul>	<p>本時の気付きや理解を振り返らせ、生徒の理解状況を把握します。</p>



**教科** 保健体育「体育」  
**単元** 球技 ネット型 バドミントン  
**対象学年** 1年生  
**目標**

- (1)状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。その中で、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲーム展開できるようにする。(技能)
- (2)バドミントンに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- (3)技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。(知識・思考・判断)

### 指導のねらい

単元の前半では、各種ストロークの打ち分けを意識させ、シングルス簡易ゲームでは、相手コートに空いた空間に打ったり、ねらった場所に打ったりといったラリーによる駆け引きのおもしろさを感じられるよう指導します。

単元の後半では、ダブルスのゲームにおいて、ルールを理解した上でペアと協力して陣形やローテーションを工夫しながら、相手との駆け引き、ラリーを楽しむことができるよう指導します。

### 単元計画

時数	学習内容
1	シャトルとラケットに慣れ、クリアー、ドライブの効果やポイントを理解して打つ。
2	スマッシュ、ドロップの効果やポイントを理解して打つ。
3	ヘアピンの効果やポイントを理解して打つ。 サービスをねらったところに打つ。(ロングハイ)
4 (本時)	サービスをねらったところに打つ。(ショート) プッシュの効果やポイントを理解して打つ。
5	相手を崩すことを考えながら、様々なフライトを用いて簡易ゲームを行う。
6	試合方法を理解し、空いた場所をめぐる攻防の展開を理解する。
7	フェアなプレイを大切にし、まとめの試合を行う。

本時の展開例

	指導の手立て	生徒の学びにつながるポイント
導入	<p><b>見通しをもたせる</b></p> <p>▶ <b>準備運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伸展部位を意識させながら、ストレッチを行わせる。</li> </ul> <p>▶ <b>2人組ラリー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シャトルを打つ瞬間まで見ることを意識させる。</li> </ul> <p>▶ <b>本時の流れの説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習プリントを配付し、本時の目標をパワーポイントを使って説明する。</li> </ul>	<p>自己や仲間の健康状態に気付かせます。</p> <p>競技に対するイメージをもたせ、目標を共有させます。</p>
	<p>・ サービスをねらったところに打てるようになる。(ショート)</p> <p>・ プッシュの効果やポイントを理解し、打てるようになる。</p>	
展開	<p><b>教える</b>      <b>思考させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種技術のポイントを意識し、生徒相互にアドバイスさせる。</li> </ul> <p>▶ <b>ICTを使った要点の説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショートサービスのポイントを説明し、映像を確認させる。</li> </ul> <p>▶ <b>練習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シャトルをねらう位置に傘を置き、打ったシャトルが傘に入った数を記録させる。</li> </ul>	<p>生徒がポイントを見逃さないように、説明する箇所を明確にします。</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットすれすれを通過する。</li> <li>・ 相手コートのショートサービスラインの近くに打つ。</li> </ul> <p>ねらう位置を明確にし、ゲーム感覚で楽しみながら技能が習得できるようにします。</p>
	<p>【評価】 サービスでは、シャトルをねらった場所に打つことができる。</p> <p>※【運動の技能】を観察して確認する。</p>	
	<p>▶ <b>要点の説明と模範</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プッシュのポイントを説明し、模範を見せる。</li> </ul> <p>▶ <b>練習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人組を組ませ、相手の膝から足首の間に打つことを意識させる。</li> </ul>	<p>説明と模範がつながるように、生徒の様子を見ながら話す間合いを工夫します。</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット近くから、直線的にたたき込む。</li> </ul> <p>コートを回りながら、ポイントを意識して、実践できているかどうかを確認をします。</p>
	<p><b>活用させる</b>      <b>把握する</b></p> <p>▶ <b>習得技能の実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習得した技能を意識させ、○点先取の簡易ゲームを行わせる。</li> <li>・ 対戦相手を変えて、複数回実施させる。</li> </ul>	<p>これまで説明された技能を実践で活用することに重点を置きます。</p> <p>コートを回りながら、習得した技能が実践できているかどうかを確認をします。</p>
まとめ	<p><b>振り返らせる</b></p> <p>▶ <b>実践に生かす振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対戦相手にインタビューし、技能の相互評価をさせる。</li> <li>・ 本時の気づきを学習プリントにまとめさせる。</li> <li>・ 数名に振り返りを発表させる。</li> </ul>	<p>自分の技能の習得状況を振りかえるために、対戦相手とともに振り返りができるようにします。</p> <p>他者の振り返りを聞くことによって、生徒自身の技能の向上につながるようにします。</p>
	<p>【評価】 技術の名称とそれぞれの動きのポイントを理解している。</p> <p>※【知識・思考・判断】を観察や学習プリントの記述から確認する。</p>	
	<p>▶ <b>整理運動</b></p>	<p>ケガの有無や体調の変化などを確認し、気付かせます。</p>



**教 科** 家庭「家庭基礎」  
**単 元** 衣生活をつくる  
**対象学年** 1年生  
**目 標** 着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて科学的に理解し、衣生活の文化に関心を持ち、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営むことができる。

### 指導のねらい

被服の機能、着装については、ペア学習やグループ学習を通して生活を振り返りながら理解できるように、被服管理については、グループ活動で思考を深め、しみ抜き実験やアイロン実習などを通して体験的に理解できるように指導します。

また、各ライフステージの衣生活の特徴や課題と関連付け、衣生活を主体的に管理し、快適な衣生活を営むために活用できる知識と技術を習得できるよう指導します。

### 単元計画

時数	学習内容
1	人の体型、身体の動き、社会的立場、被服の嗜好などが、各ライフステージによって異なることを理解し、被服の機能と着装、人間と被服との関わりについて考える。
2	天然繊維や化学繊維の特徴を踏まえ、衣服素材の種類や性能改善と着心地との関係について理解する。
<b>3 (本時)</b>	<b>衣服管理に用いる洗濯用洗剤などの溶剤等の使用方法をもとに、衣服管理の流れを理解する。</b>
4	洗剤の働きと汚れが落ちる仕組みを科学的に理解し、しみの種類や付着状況の違いに応じたしみ抜きの方法や手順についてまとめる。
5	組成表示、家庭用品品質表示、取扱絵表示などに基づき、被服の選択をし、被服材料に適した手入れについて考える。
6	カッターシャツのアイロンがけ実習を行う。
7	購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを考えた循環型被服計画の必要性について理解する。
8	衣服の身体保護機能を振り返り、安全で健康な衣生活を営むための工夫について考える。

本時の展開例

	指導の手立て	生徒の学びにつながるポイント
導入	<p><b>見通しをもたせる</b></p> <p>▶ <b>身近な教材の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほこりがつき、しわになった夏の制服を見せ、衣服の管理について関心をもたせる。</li> </ul> <p>▶ <b>生徒と目標の共有</b></p> <p>洗濯用洗剤などの使用方法をもとに、衣服をきれいに保つための管理の流れを理解する。</p>	<p>身近な実物教材を提示して、生徒が自分の事として捉えられるようにします。</p>
	<p>▶ <b>本時の流れの説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習の全体の流れと発表方法を説明する。</li> </ul>	<p>グループ学習と発表の流れを視覚的に提示して説明し、アイロンの使用方法を事例にして発表方法を紹介します。</p>
展開	<p><b>教える</b></p> <p>▶ <b>資料の読み取り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯用洗剤、漂白剤、柔軟仕上げ剤、除湿剤、防虫剤のいずれか1種類を各グループに配付し、用途や使用方法を読み取らせる。</li> </ul> <p>▶ <b>生徒同士の対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで発表用の資料にまとめさせる。</li> </ul> <p>▶ <b>グループ発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの溶剤等について、確認をさせる。</li> <li>・説明が足りないところは補足する。</li> </ul>	<p>読み取る視点をワークシートに明確に示し、パッケージから必要な情報を確実に読み取ることができるようになります。</p> <p>グループ活動中の机間指導の際に、パッケージの見方ができているかどうかを確認します。</p> <p>穴埋め形式の発表用紙や発表用リード文、補足写真を準備し、短時間で発表用にまとめられるようにします。</p>
	<p><b>思考させる</b></p> <p>▶ <b>生徒同士の対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をもとに、洗濯物が保管されるまでの工程を図式化させる。(個人→グループ)</li> </ul>	<p>パッケージの情報を事前にまとめ、順番を入れ替えられる資料とワークシートを用意し、衣服管理の過程について考えられるようにします。</p>
	<p><b>把握する</b></p> <p>▶ <b>先生と生徒の対話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯物が保管されるまでの流れを確認する。</li> <li>・家庭洗濯と商業洗濯の違いについて知らせる。</li> </ul>	<p>自分で考えた後、グループで確認することで、分からなかったところについて、相談しながら理解できるようにします。</p> <p>生徒が考えた衣服管理の流れを確認しながら、生徒の学習内容の理解度を把握します。</p>
	<p><b>【評価】</b> 洗濯用洗剤などの溶剤の使用方法をもとに、洗濯から保管に至るまでの衣服管理の流れを理解している。</p> <p>※【知識・理解】をワークシートの記述から確認する。</p>	
まとめ	<p><b>振り返らせる</b></p> <p>▶ <b>生活に生かす振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で用いた夏の制服の管理方法をまとめさせる。</li> <li>・本時で分かったこと、分からなかったことを自分の言葉で書かせる。</li> </ul> <p>▶ <b>次時の予告</b></p>	<p>導入で用いた夏服の管理方法をまとめさせ、本時の学習内容が実際に使える知識になっているかを確認します。</p> <p>本時で学んだことを振り返らせ、今後の生活でどのように活用できるかを考えさせます。</p>



**教 科** 数学「数学Ⅰ」  
**単 元** 二次関数  
**対象学年** 1年生  
**目 標** 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり二次関数の最大値や最小値を求めたりすることができる。

### 指導のねらい

二次関数の最大値・最小値は、グラフを書かないと説明できないので、 $y=ax^2+bx+c$  を  $y=a(x-p)^2+q$  の形に変形し、中学校の既習事項である平行移動の観点を用いて、関数  $y=ax^2+bx+c$  のグラフを考察させます。

また、関数概念の理解を深め、関数を用いて数量の関係変化を表現することの有用性を認識できるようにし、値の変化を考察することで関数の最大値・最小値を求めることができるように指導します。

### 単元計画

時数	学習内容
1～8	二次関数で表される関係を見つけ、二次関数のグラフの特徴について理解する。
9～15	二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察する。また、二次関数の最大値や最小値を求める。
16～28	二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求める。
<b>28 (本時)</b>	<b>二次関数のグラフを多面的に考察する。</b>



本時の展開例

	指導の手立て	生徒の学びにつながるポイント
導入	<p><b>見通しをもたせる</b></p> <p>▶ <b>本時の流れの説明</b>                      ・知識構成型ジグソー法の学習形態を用いることを伝える。                      ▶ <b>学習課題の提示</b></p> <p>二次関数 <math>y=ax^2+bx+c</math> のグラフと <math>x</math> 軸の正の部分が異なる2点で交わるときの条件を考えよう。</p>	<p>今までの既習事項をもとに、ヒントがあれば解決できる課題であることを伝えます。</p>
展開	<p>▶ <b>学習課題の取組</b>                      ・学習課題に取り組み、予想させる。</p> <p><b>思考させる</b></p> <p>▶ <b>生徒同士の対話（エキスパート活動）</b>                      ・グループでエキスパート課題に取り組みさせる。</p> <p>二次関数 <math>y=x^2-2mx+6</math> のグラフと <math>x</math> 軸の正の部分が、異なる2点で交わるとき、定数 <math>m</math> の値の範囲を求めよ。                      A: グラフと <math>x</math> 軸の共有点の個数                      B: <math>x</math> 軸との共有点の符号と二次関数の軸との関係                      C: 下に凸のグラフについて、<math>x</math> 軸との共有点の符号と <math>y</math> 軸との交点</p> <p>▶ <b>生徒同士の対話（ジグソー活動）</b>                      ・エキスパート活動のA、B、Cが集まるジグソー班を構成し、それぞれエキスパートで話し合ったことを報告させる。                      ・本時の学習課題についてグループで話し合わせ、ホワイトボードにまとめるよう指示する。</p> <p><b>把握する</b></p> <p>▶ <b>発表（クロストーク）</b>                      ・学習課題についてまとめたホワイトボードを黒板に提示し、内容について全体発表させる。                      ・発表者以外は、聞きながらメモを取るよう指示する。                      ・必要に応じて補足説明を行う。</p> <p>【評価】 二次関数のグラフを多面的に考察することにより、課題解決に必要な条件を理解し、説明することができる。                      ※【数学的な技能】を観察、ワークシートの記述から確認する。</p>	<p>活動前に学習課題に対して予想することで、活動に取り組むことができるという可能性を感じられるように促します。</p> <p>メイン課題を解くヒントであるということを意識させながら、エキスパート活動に取り組みさせます。</p> <p>各エキスパート課題について話し合ったことを報告しなければならないという責任感をもたせ、それぞれのエキスパート課題に主体的に取り組ませます。</p> <p>エキスパート活動で話し合ったことや既習事項を融合させて考えていくようにします。</p> <p>話し合いが進んでいない班には、話し合いを促せるよう声かけをしていきます。</p> <p>ホワイトボードにまとめる際には、他者に伝えるまとめ方や書き方を意識するようにします。</p> <p>発表では、結果だけの報告にならないように、話し合いの過程についても、生徒自身の言葉で報告するように指示します。</p> <p>押さえるべき要点の不足や結果に行き着かない場合は、ヒントを出しながら、説明をします。</p>
まとめ	<p><b>振り返らせる</b></p> <p>▶ <b>学習課題の取組</b>                      ・学習課題を解くために三つの条件が必要だったのはなぜかを考えさせる。</p>	<p>二つの条件だけでは学習課題を解くことができないことに気付かせます。</p>

## 2. 誰もが分かる授業を意識する

Basic p.17

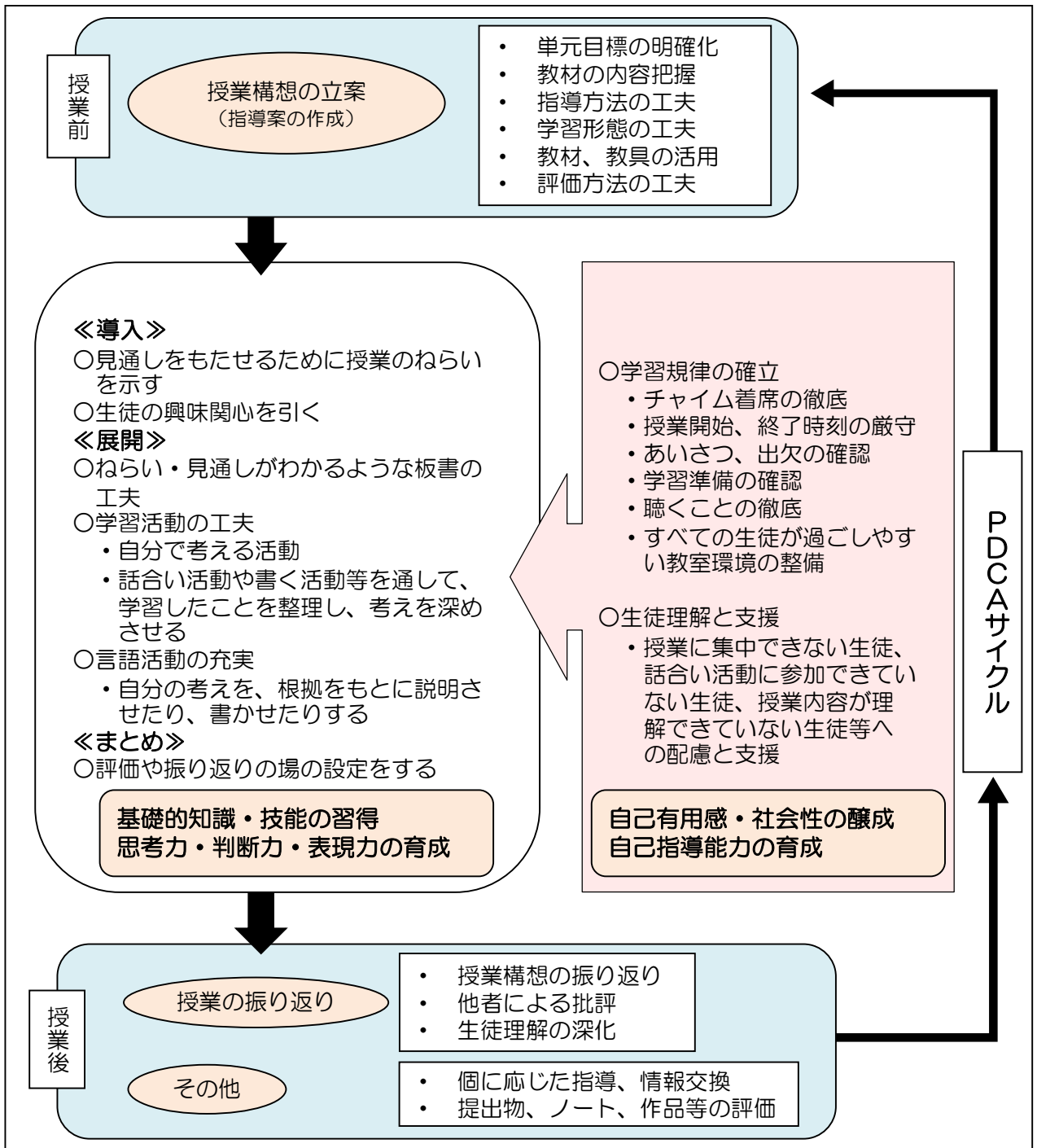
### <生徒指導の三機能を生かした授業づくり>

「生徒指導提要」（平成22年 文部科学省）において、生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めていく教育活動を通して、自己指導能力を育成することであると示されています。さらに、児童生徒にとって、学校生活の中心は授業であり、毎日の教科指導において自己指導能力の育成につながる生徒指導の機能を発揮させることは、生徒指導上の課題を解決することにとどまらず、学力向上にもつながるとしています。

「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」は、「教科の学習指導を展開する場で、教科のねらいを達成しながら、生徒指導を機能させる」ということで、主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりと重なるものであり、生徒と教員の関わり、生徒同士の関わりを大切にした授業につながります。

生徒指導の三機能	目指す生徒の姿	三機能を生かす手立て
自己決定の場を与える	課題解決に向けて、自ら進んで活動し、自ら考え、判断した過程や結果について、自分の言葉で表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどのように考え、まとめたらよいかなどの視点や方法を分かりやすく示す。</li> <li>・発表や意見交流の前に一人で調べたり、考えたりする時間を確保する。</li> <li>・思考の過程や課題解決の過程が分かるようなノートの書き方を指導する。</li> <li>・学習の振り返りをさせ、理解できたこと、疑問に思うことを明確にさせる。</li> <li>・多様な意見を生むような発問の工夫をする。</li> </ul>
自己存在感を与える	課題解決の場で、自分の果たすべきことや役割を自覚し、仲間と話し合い協力しながら、自分の良さや力を発揮することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の良さを生かしながら、活躍できる場面を設定する。</li> <li>・生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ活動などを取り入れる。</li> <li>・ペアやグループで協力しなければ解決できない学習課題を設定する。</li> <li>・授業に意欲を見せない生徒や学業が振るわないような生徒にも、学習に向かえる配慮をする。</li> <li>・うなずいたり、褒めたりしながら、個に応じた評価、励ましを具体的に示す。</li> </ul>
共感的な人間関係を育成する	自分の考えや思い、判断を表現するとともに、互いの考えや意見を肯定的に認め合い、学び合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応えたり、拍手をしたりするような共感的な雰囲気づくりを行う。</li> <li>・生徒一人一人を受け入れて褒め、生徒の人間性を認めながら指導する。</li> <li>・相互評価など、互いの良さを認め合う活動を取り入れる。</li> <li>・生徒同士の発言をつなげ、集団での学び合いを意図的に設定する。</li> <li>・生徒の学び合い、教え合いを大切に、教師主導にならないよう配慮する。</li> </ul>

▶▶ 生徒指導の三機能を生かした教科指導のポイント



生徒指導の三機能

<p><b>自己決定の場を与える</b></p> <p>自ら課題を見つけそれを探究し、自ら考え、判断し、表現する授業</p>	<p><b>自己存在感を与える</b></p> <p>一人一人を大切にし、学ぶ楽しさ、充実感、成就感を味わわせる授業</p>	<p><b>共感的人間関係を育成する</b></p> <p>お互いに認め合い、学び合う授業</p>
--	--	---

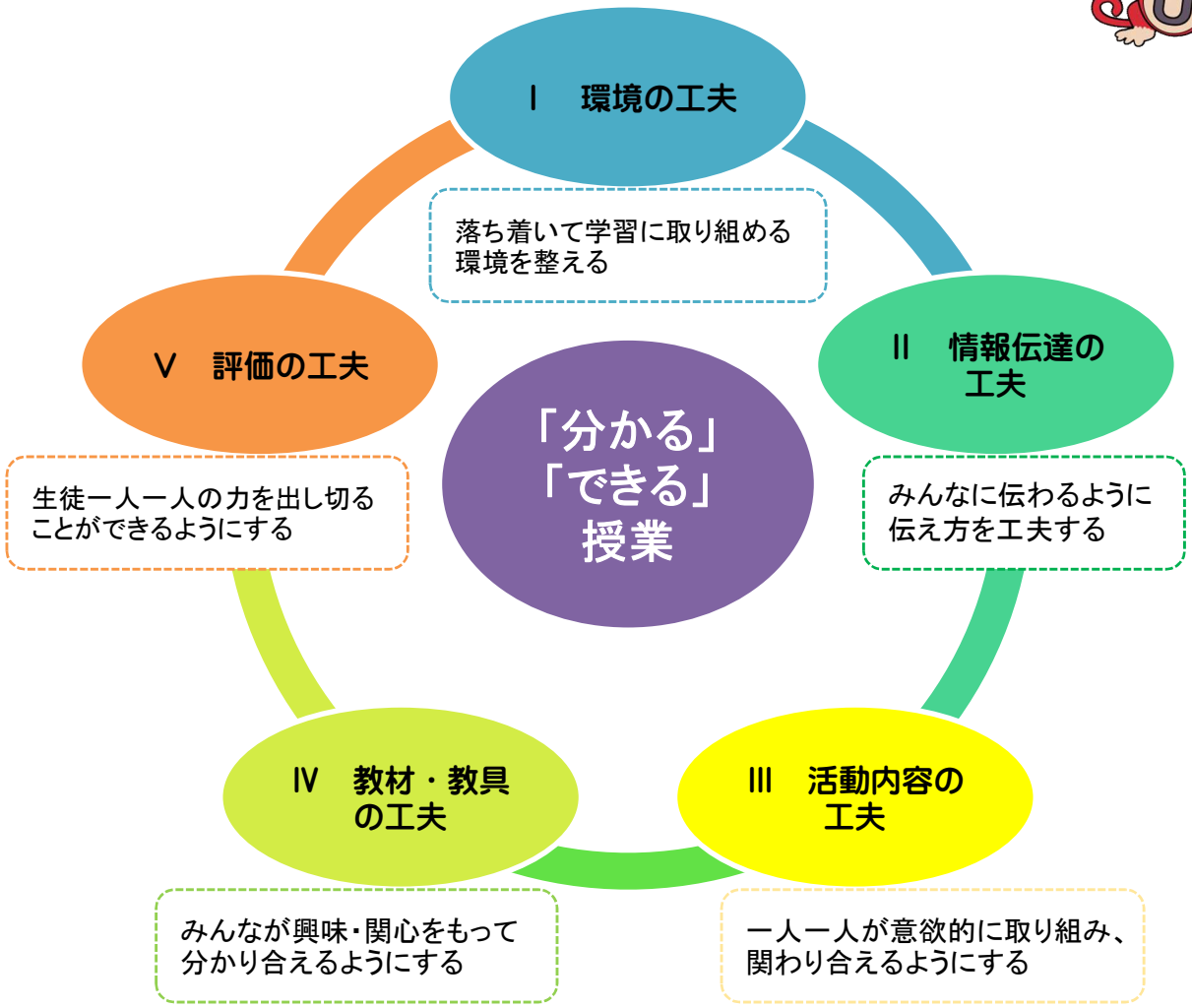
ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、障害の有無を問わず、誰にとっても使い心地がよく、便利で扱いやすいデザインのことを言います。この考えを教育に当てはめると、すべての生徒が「分かる」「できる」ようにするための工夫や配慮をした授業改善を行う取組が、ユニバーサルデザインに基づく授業づくりです。

すべての生徒が安心して過ごすことのできる環境をつくり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しましょう。

ユニバーサルデザインに基づく「分かる・できる授業」とは、  
学習のめあてや内容が児童生徒に伝わる授業



第3章 Do



## ユニバーサルデザインに基づく授業づくりで大切にしたいポイント

### I 環境の工夫

- 学習のめあてを分かりやすく示す。
- 教室の前面を意識的にすっきりさせる。

### II 情報伝達の工夫

- 授業の流れが分かる板書にする。
- ポイントを明示する等、板書の構造化を図る。

### III 活動内容の工夫

- 授業の流れを視覚的に提示する。
- ペア学習、グループ学習を取り入れるなど、生徒同士が関わり合い、学び合い、教え合う場を設定する。

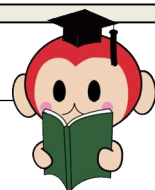
### IV 教材・教具の工夫

- 問題解決学習の過程に合わせたヒントカード等を利用する。
- タイマー等を使い、時間の見通しをもてるようにする。
- ICT機器を活用する。

### V 評価の工夫

- 生徒が自分で活動のチェックができるものを用意する。
- 適切な行動と結び付くように、行動の直後に評価を行う等、賞賛や注意のタイミングをはかる。

## 〈具体的な実践事例 ～学習に主体的に取り組めるようにするために～〉

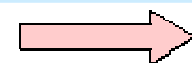
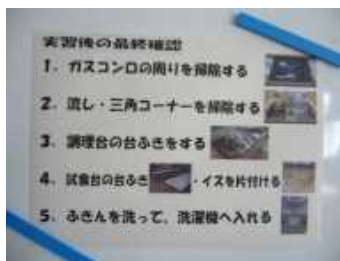


注意を向けてほしい対象に注目しやすい環境を設定する。(I 環境の工夫)



◆棚に無地のカーテン等をかけて中が見えないようにする。黒板周りにはできるだけシンプルにするとともに、教職員の机も整理整頓し、外部からの刺激量を調整する。

学習内容の手順を視覚的に提示する。(II 情報伝達の工夫・III 活動内容の工夫)



作業手順を明示して黒板に貼り付け、作業手順を文字と写真で示す。



班ごとにチェックシートを配付して毎時間チェックできるようにする。

ICT機器等を効率的に活用する。(IV 教材・教具の工夫)

◆教材(ノート等)を拡大して提示する。



生徒のノートやワークシート、実験道具等を拡大して提示する。

### 3. 1時間の学びが見える板書をつくる

#### ▶▶ 構造的な板書例のポイント

板書の書き方を工夫することによって、生徒に学習内容を構造的に見せることができます。1単位時間の授業の流れが分かるように構成を工夫しましょう。

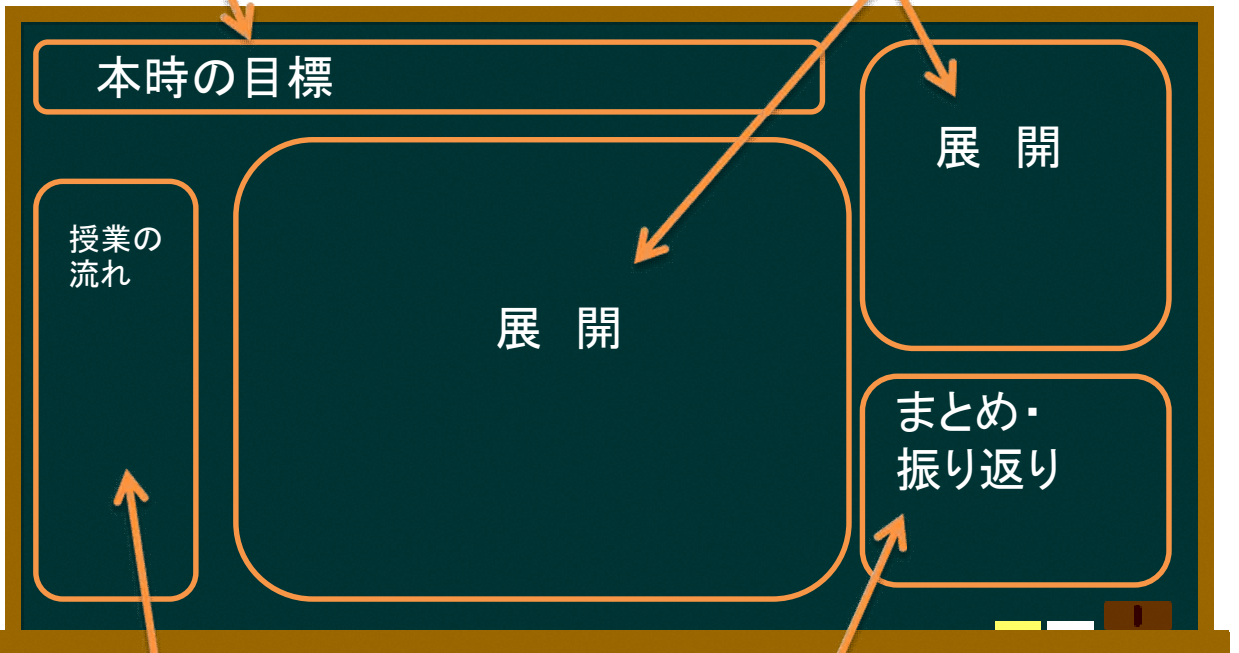
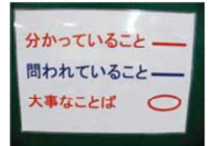
#### 見通す活動（目標の明示）

生徒に分かりやすい表現で学習目標を設定し、視覚的に示しましょう。生徒が本時で「行うこと、できるようになること」を把握することで、主体的に学習することにつながります。

#### 学習活動の工夫

本時の学習や生徒の思考の流れが分かる板書にしましょう。板書する際は、色チョークの使い分けなどのルールを決めると、重要な事項を生徒が理解しやすくなります。

※黒板に赤い字は見えにくいので、赤チョークは傍線や枠囲みに使いましょう。



#### 見通す活動（流れの確認）

本時の学習の流れを視覚的に示しましょう。活動をしている場面を、その都度示すことで、授業の途中で活動をやめてしまった生徒も再び活動に参加する手立てとなります。学習の主な活動をカードにしておくで、効率的に示すことができます。



#### 振り返る活動

「本時の学習目標」に対する「まとめ」を簡潔に書きましょう。

生徒から出された言葉をもとに、各教科等の言葉を使いながらまとめることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着につながりやすくなります。

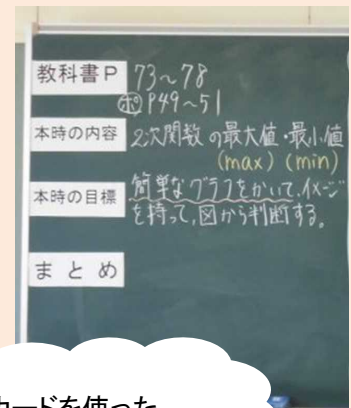
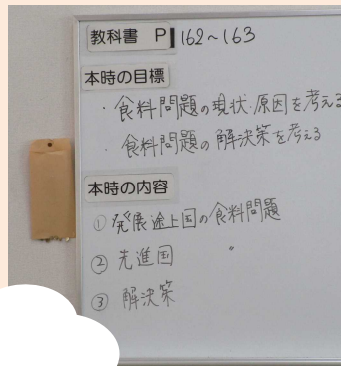
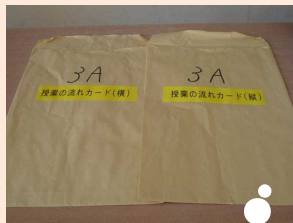
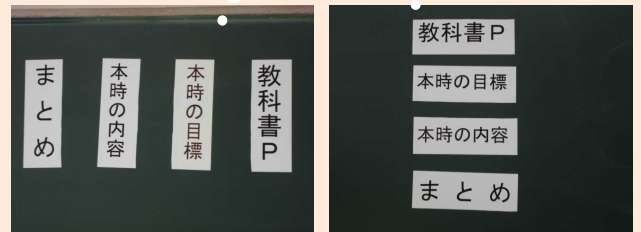
生徒の振り返りの視点も示し、生徒自身が本時の学習について振り返ることで、次の学習への意欲を高める手立てとなります。

▶▶ 板書の工夫事例



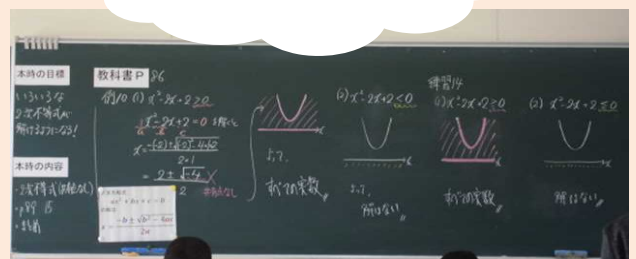
全教科で使える板書カードを縦書き・横書きの2パターン作成しています。

前面に掲示物がないすっきりとした黒板は、生徒が学習に集中しやすくなります。

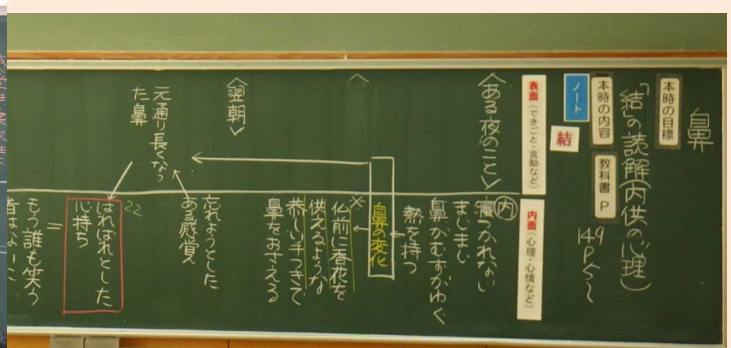
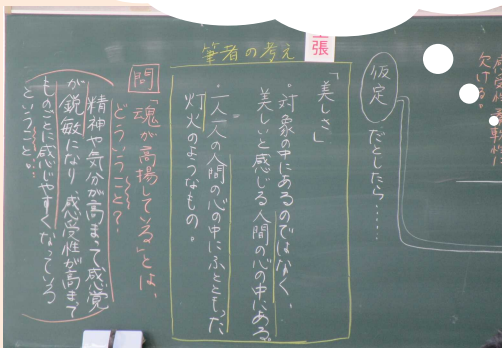


どの教科でもいつでも使えるよう、カードを各教室に常備しています。

板書カードを使った黒板例です。

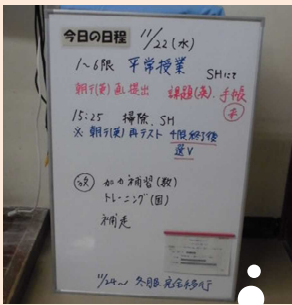


色チョークを効果的に使うことで、生徒の理解を支援します。



## ▶▶ 学びを支える学校環境例

### <教室掲示>



生徒が授業に集中しやすいよう、掲示物は教室の後ろに掲示しています。

教室の見やすい場所に配置できるよう、今日の日程をホワイトボードに書いています。

実習室で常に気を付けてもらいたいことは、整理して掲示しています。



### <図書室>

入口にソファを置き、図書室に入りやすい雰囲気にはしています。



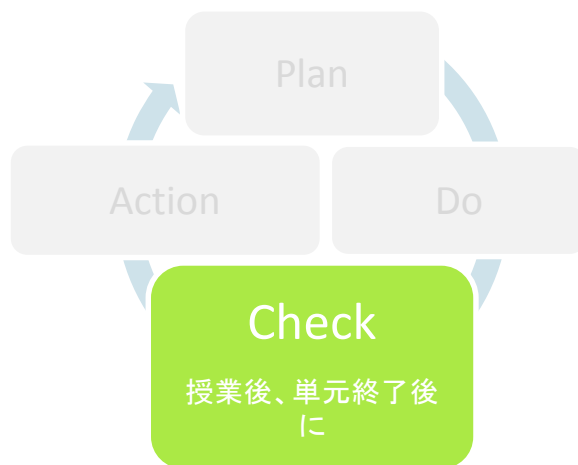
カウンターの上に何も物を置かないようにし、生徒が話しかけやすいよう配慮しています。



一人で集中して自習できるよう、一人席が設置されています。



# 第4章 学習指導を評価する



授業後、単元終了後の  
生徒の学習状況の把握

生徒の学習状況を観点ごとの評価規準に照らして評価し、生徒の変容を把握しているか。

校内での授業参観

学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかどうかを客観的に評価しているか。

指導方法の分析

生徒の学習状況や同僚等の客観的評価から、指導方法を多面的に評価し、課題を分析しているか。

# 1. 生徒の学習状況を把握する

授業中の生徒の学習状況の観察、学習ノートの確認、評価テストの実施などにより、学習目標に対する生徒の学習状況を、観点別評価の評価規準に照らして把握しましょう。学習内容が定着していることを、単元ごとのまとめりでも確認しましょう。

## 学力の三要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能

技能

及び

知識・理解

で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

思考・判断・表現

で評価

主体的に学習に取り組む態度

関心・意欲・態度

で評価

## 生徒の見取りの視点

- ・ 生徒の学習への意欲や態度はどうだったか
- ・ 生徒の学習目標の達成状況はどうだったか

など、授業後の生徒の姿を見取りましょう。

授業後の  
生徒の実態

授業前の  
生徒の実態

学校教育目標での  
目指す生徒の姿

教科で目指す  
生徒の姿



「生徒に身に付けさせたい力」、「学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された状態」を明確かつ具体的に、生徒の学習状況を的確に見取ることが大切です。

## ▶▶ 観点別評価

生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていきましょう。

### 現行学習指導要領での評価の観点ごとの趣旨

評価の観点	評価の趣旨
関心・意欲・態度	各教科・科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価
思考・判断・表現	各教科・科目の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価
技能	各教科・科目において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価
知識・理解	各教科・科目において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けているかどうかを評価

次期学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が示されました。各教科において育成する資質・能力が身に付いているかどうかを評価し、指導の改善に生かすことが求められています。

### 次期学習指導要領で育成を目指す資質・能力

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。



資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要です。

## 2. 校内で授業を参観し合う

同僚と授業を参観し合い、学習目標に対する生徒の学習状況を客観的に評価しましょう。同一教科だけでなく、他教科の教員とも授業づくりについて日常的に会話をすることで、指導方法のヒントをもらうこともできます。

### ▶▶ 授業参観のための評価シート例

授業を参観するときには、「本時で付けた力は何か」「そのための授業展開はどのように計画しているか」が分かると、それらの力がどのように付いたかを評価することができます。

また、参観する視点が明確になっていると、教科横断的に授業改善に取り組むことができます。

校内研究テーマ		授業参観シート	
		授業者 ( )	
本年度の取組の重点	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>		
実施日時	平成 年 月 日 ( 曜日 )	限目	
対象クラス	( 中 ・ 高 ) 年	ホーム ( 全員 ・ 選択 ・ その他 )	
教科・科目・場所	教科:	科目:	場所:
単元(教材・題材)名			
観点別評価規準			
学習過程	学習活動・指導上の留意点	参観者の評価 (◎○△)	
学習目標や学習課題の提示	1	学習目標(めあて)を全員に分かるように提示できていたか。 生徒一人一人の思考を基に学習を深め、課題を追究できていたか。(発問の工夫、学び合いなど学習形態の工夫)	
本時の授業	課題解決 自力解決 集団解決 ・ペア ・グループ ・全体 等	本時の学習目標が達成できているか、全員の状況の把握ができていたか。 学習目標(めあて)に対するまとめができていたか。 【自由記述欄】	
まとめ 振り返り			
		参観者 ( )	

授業日 平成 年 月 日		
授業観察シート		
クラス ( )	科目 ( )	
ユニット	授業者	参観者
＜〇〇高校の基礎学力の定義＞		
＜教科における生徒に身につけさせたい力＞		＜本時で特に意識する力＞
＜本時に取り組むテーマ(単元)＞		
＜本時の到達目標＞		
授業のポイント	授業者の様子で気づいた点	生徒の様子で気づいた点
目標提示	○ 本時の到達目標を明示し、生徒に理解させている。 【評価: 3・2・1】	
指導方法の工夫	○ 目標達成のための指導方法の工夫 ・ ICT機器活用や教材の工夫 ・ 学習形態の工夫 ・ 生徒の活動の工夫 など 【評価: 3・2・1】	教える場面 思考させる場面
振り返り	○ 生徒に授業での学びや気づきの振り返りをさせている。 【評価: 3・2・1】	
＜授業を参観してどのような気づきがあったか、自分の授業に取り入れてみようと思ったこと＞		
参観者の気づき		
＜その他(授業全体の感想など)＞		

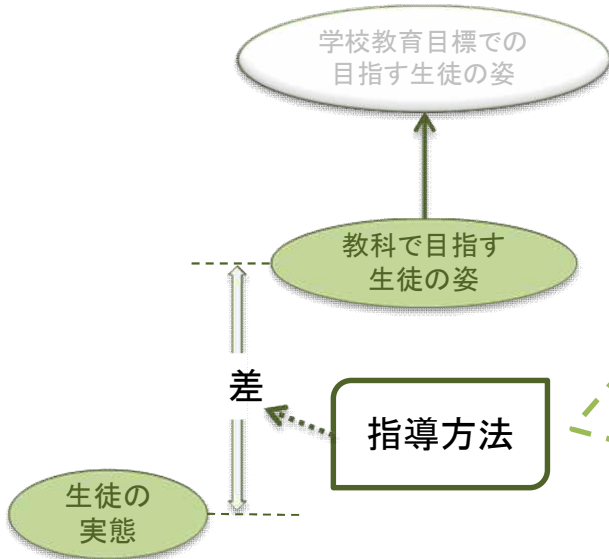
授業を参観することで、自分の授業では気付かなかった生徒の学習の様子を見ることもできます。

自分の授業でつまづいている生徒の学び方も発見できるかもしれません。



### 3. 自己の指導方法を振り返る

観点別評価で見取った生徒の姿や同僚等からの客観的評価を基に、指導方法を評価し、課題を分析しましょう。



生徒に付けたい力が十分に付けられていなかったと判断する場合は、指導方法の課題はどこにあったのかを振り返りましょう。また、生徒に付けたい力が付けられていたと判断する場合は、どのような指導方法が効果があったかについても振り返ることで、指導方法の課題解決につながります。

#### ■ 指導方法を振り返る材料例

- ・観点別評価による生徒の学習状況の達成状況
- ・生徒の自己評価
- ・生徒による授業評価アンケート
- ・観察者による生徒の学習状況の評価
- ・授業者による自己評価

#### ▶▶ 指導方法の振り返り分析例

「生徒用の授業アンケート」と「教師用の授業力チェックシート」をもとに、授業力のどの部分に課題があるかを分析し、数値で把握できるようにしています。

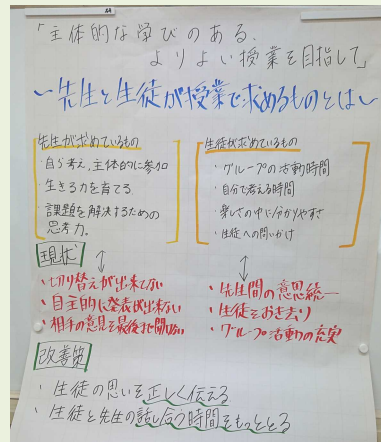
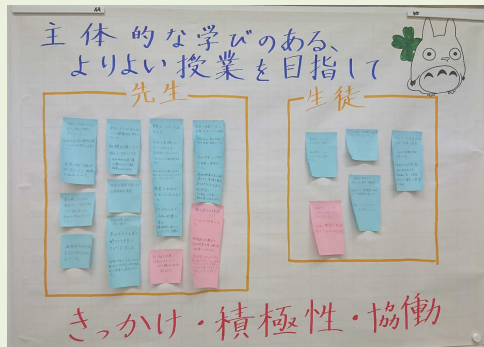


## ▶▶ 生徒と教員で協議する授業改善検討委員会の取組例

公開授業を観察した後、生徒代表と教員代表とが協議を行い、授業改善に向けた取組を行っています。共通の視点で授業を参観し、同じグループで協議を行い、「主体的な学びのあるよりよい授業」の実現に向けた提言を発表します。

委員会の提言は、職員会議において全教職員で共有しています。

### 〈グループ協議したまとめ〉



生徒と教員から提言された「よい授業のイメージ」や「よい授業の実現のために求められる事柄」については、第1章 P.3～4に掲載しています。

自分の授業を振り返ってみましょう。

## ▶▶ 授業評価アンケートの応用例（生徒から先生への通知表）

授業評価（通知表）

1. 授業評価  
下記の内容について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業をするためのものです。積極的に答えてください。

(よい) 4   3   2   1 (悪い)

(1) 授業者に対する評価

項目	4	3	2	1
声は聞き取りやすかったですか。	4	3	2	1
説明は分かりやすかったですか。	4	3	2	1
指示の仕方は適切でしたか。	4	3	2	1
時間配分は適切でしたか。	4	3	2	1
個に応じた指導ができていましたか。	4	3	2	1

(2) 授業内容に対する評価

項目	4	3	2	1
本時の学習のねらいは明確にできていましたか。	4	3	2	1
授業の流れや思考の過程等が分かる板書になっていましたか。	4	3	2	1
学習内容に応じて、活動になっていましたか。	4	3	2	1
ワークシートは、授業内容に適したものになっていましたか。	4	3	2	1

2. 自由記述欄

授業について、よいと思う点について書いてください。

授業について、改善したほうがよいと思う点について書いてください。

生徒の成績を定期考査ごとに評価するように、生徒からも教員の授業について評価してもらいます。

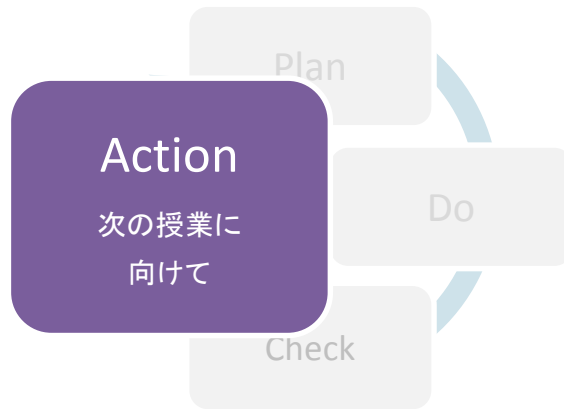
評価項目は、授業者が授業を進めるに当たっての自己課題とすることを聞くようにしています。

同じ内容でも、アンケートと捉えさせるか、通知表と捉えさせるかで生徒の意識は違うかもしれません。

生徒と一緒に授業を作っていくとする教員の意気込みが伝わりますね。



# 第5章 次の授業に向けて改善する



指導方法の見直し

生徒の学習状況を改善するために、指導方法を見直しているか。

校内での授業研究

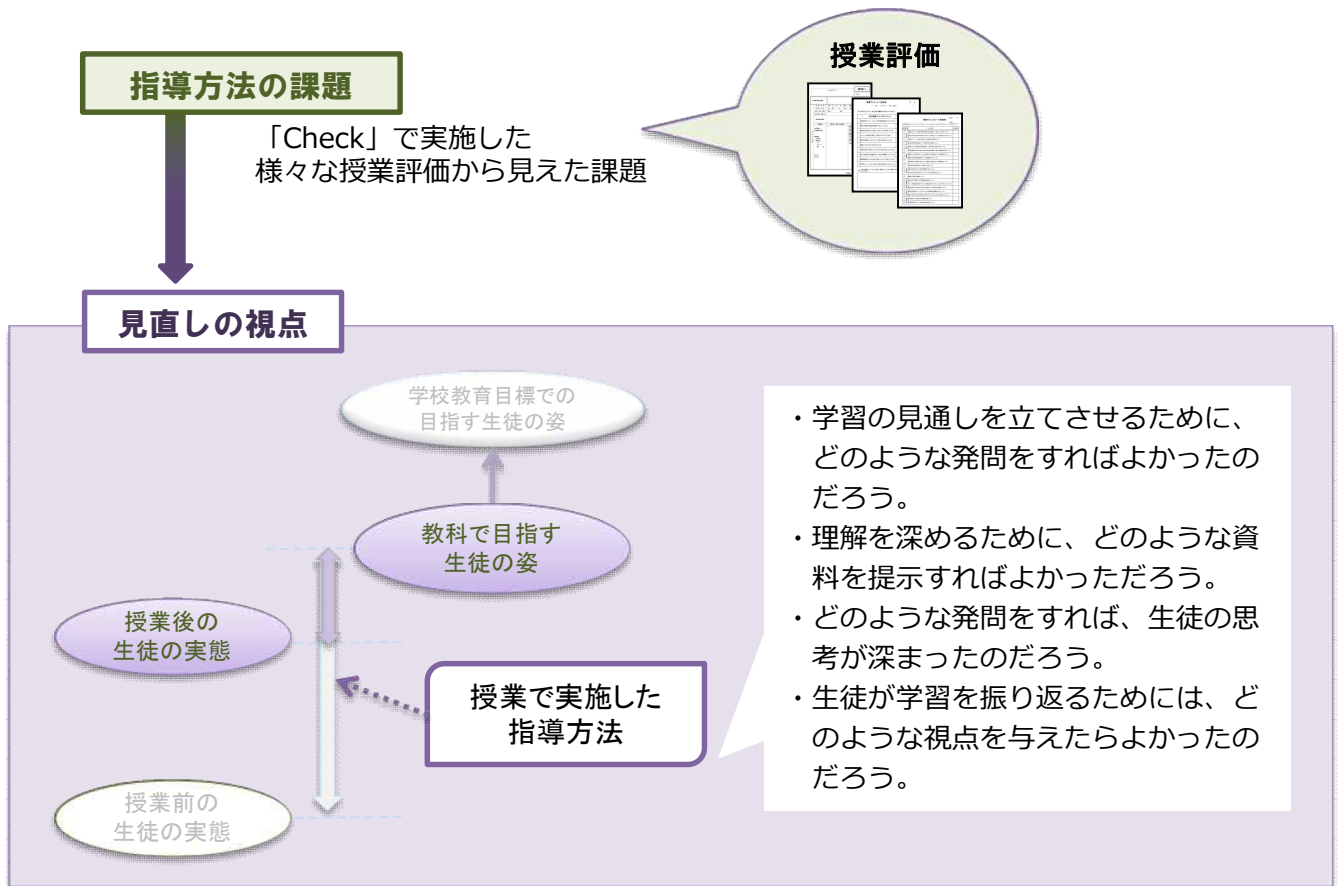
生徒の学習状況を踏まえ、具体的な指導方法の見直しを同僚等と協議しているか。

年間指導計画の見直し

他校種・他学年との学習内容の系統性や教科間のつながりを踏まえて、年間指導計画や単元・題材の指導計画を見直しているか。

# 1. 自己の指導方法を見直す

授業に関する評価を活用しながら、単元（題材）の指導計画で立てた目標を達成できるように指導方法の見直しを行いましょう。見直しに当たっては、他の教員の実践や他校の実践研究等の事例も参考にし、生徒の実態に合わせて検討することが大事です。



生徒の学習をより深めるためには、どのような指導方法の工夫ができるのかを考えましょう。

そのためにも、各研修会等の、自身の専門性を高められる場に積極的に参加しましょう。





## 2. 校内で指導方法を見直す

研究授業や公開授業を通じて、他教科等での指導方法も参考にしながら、指導方法の見直しを行いましょう。生徒の立場に立ち、生徒がよりよく学ぶことができる指導方法を教職員で共有し、学校として共通の学び方を示すことも考えられます。

### 教科会の進め方

一つの学校に同一教科の教員が複数いる場合は、教科会で生徒の様子を共有したり、指導方法の検討を行ったりすることができます。教科会の場を活用して、授業改善について検討することで、教科の専門力の向上にもつながります。



### ▶▶ 定期考査等を活用した教科会のPDCA例

P

- ・教科で目指す生徒の姿を確認する。
- ・教科会の内容について検討する。

#### <教科会での協議事項例>

- ・教材、授業展開について
- ・年間指導計画、シラバスを用いた指導内容や進度について
- ・定期考査問題、小テスト等の問題検討について
- ・定期考査、小テスト等の結果の分析について

P

- ・教科で付けたい力が付けられるような教材、指導方法について検討する。
- ・教科で付けたい力が付いているのかどうかを把握できるような考査問題を検討する。

D

- ・付けたい力を授業目標として授業を実践する。
- ・付けたい力の定着を把握する考査を作成する。

C

- ・考査の結果をもとに、教科で付けたい力が付いていたかどうかを分析する。
- ・考査の分析から、生徒に力が付いていないところの指導上の課題を検討する。

A

- ・指導上の課題を改善し、生徒に付けたい力が付けられるような指導方法について検討する。



このPDCAサイクルを、定期考査の期間を目安として、年間を通して繰り返していきます。

## 校内研修の進め方

公開授業後の研究協議では、教科横断的な視点で協議をすることで、指導方法の幅が広がります。

教科会での専門教科の視点と校内研修での教科横断的な視点をリンクさせて、組織的に授業改善を進めていきましょう。

「学校教育目標で目指す生徒の姿」に基づき、授業検討の視点を設定しましょう。

「学校教育目標で目指す生徒の姿」については、「第2章：Plan」：生徒の実態把握のところを振り返りましょう。



### ▶▶少人数の教員で集まる例

少人数の教員グループ（他教科同士）でユニットを組み、相互の授業参観、協議を実施。

ユニットで 以下の内容を授業検討シートにまとめる。  
①授業者の振り返り  
②参観者から

#### 検討の視点

- ・授業のねらい
- ・生徒とのねらいの共有
- ・生徒の主体的・対話的な学習活動や学び直しの学習活動
- ・課題点と改善に向けての提言

全体で まとめた授業検討シートを、共有フォルダで管理。

### ▶▶全教員で集まる例

代表者の授業を参観、協議を実施。授業者は「何ができるようになったか」を念頭に置いた授業を提案。

全体で ①授業者の振り返り  
②参観者との質疑応答

教科で 「適切な授業目標の設定や評価についてどのような工夫が必要か」について協議。

全体で 各教科での話し合いを共有。

全教員で授業改善を進めるには、体制づくりが必要です。教科会の時間設定や他教科との協議を進めるためには、校内での時間割調整等も行いましょう。



## ▶▶ 校内研修で用いる思考ツール例

思考ツールは、頭の中にある知識や新しく得た情報を、一定の視点や枠組みに従って書き出すツールです。その活用によって、見ているのに意識していなかったものに気付いたり、取組の価値を再認識したりすることにつながります。

### 例① KJ法的手法

KJ法的な手法を用いることで、収集した情報を基にした新たな発見や情報と情報の間にある関係性等に気付くことができます。

#### 【ポイント】

##### ○実施上のポイント

- ・一つのカードに情報は一つ書く。
- ・長方形のカードに横書きする。
- ・単語ではなく、文章で書く。
- ・カードを類型化し、まとまりを作るとき、無理にまとめないようにする。
- ・リーダーを決めて、メンバーの合意を得つつすすめる。

##### ○関係を明らかにする際のポイント

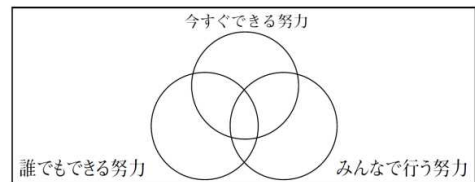
- ・いくつかのグループをまとめて、さらに大きなまとまりを作る場合もある。
- ・まとまり間の因果関係を検討しつつ、線や矢印等で結びながら全体を整理していく。
- ・関係性を明らかにするために全体を俯瞰する。

### 例② ベン図

集まった情報を整理・分析するときに、ベン図を用いて要素で整理すると、共通点や相違点を明らかにすることができます。また、どの集合に位置付けるかを話し合うことで様々な視点が生まれるきっかけにもなります。

#### 【ポイント】

- ・三つの因子で考える場合にはベン図で整理できます。因子は活動によって変わります。研修の目的にふさわしい因子を位置付けることが重要です。
- ・三つの因子例「今すぐ」「誰でも」「みんなで」これは、緊急を要するものなのか、実現可能なものか、集団の力が必要なのかといった視点で設定した例です。



### 例③ 概念化シート

二つの軸を立てて対象を位置付けることによって物事を整理するために使います。論点を明らかにした話し合いをすることにつながり、複眼的な視点で分析することになります。

#### 【ポイント】

##### ○軸の参考例

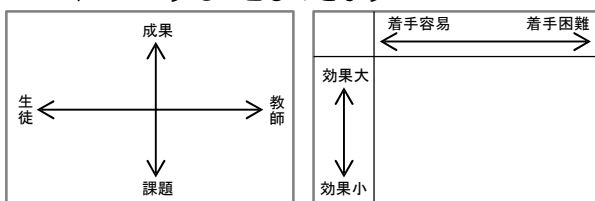
- ・効果性    ・実現可能性    ・緊急性

##### ○軸を変えて分析

- ・同じ情報も尺度を変えて分析することで異なる様相が見えてくることがあります。

##### ○軸の強弱

- ・軸の端の方では何かの程度が大きくなり、反対方向ではそれが小さくなるというようにイメージすることもできます。

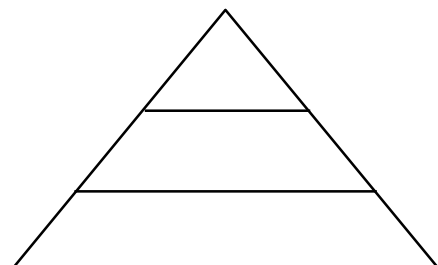


### 例④ ピラミッドチャート

伝えたい内容を絞り込むときに使います。一番下にもっている情報や意見をなるべくたくさん書き込みます。その中で、重要だと考えるものをいくつか選んで上の段に書き直します。さらに、最も重要だと考えるものを最上段に書き入れます。

#### 【ポイント】

- ・段をあがるときに、いくつかの情報や意見をグループにしてまとめたものを書き込んでいかまいません。取捨選択と統合によって、混沌としていた情報を絞り込んで整理していきます。



### 3. 指導計画を見直し、付けたい力を確実に付ける

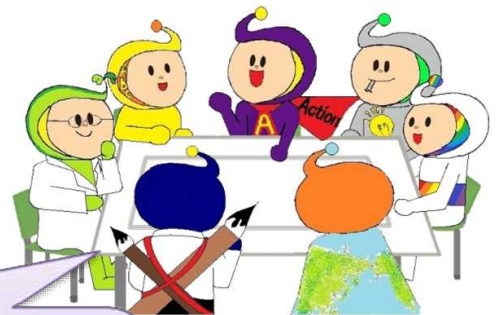
身に付けさせたい資質・能力が育まれるように、単元（題材）の指導計画の見直しを随時行い、修正していきましょう。教科等横断的に資質・能力を育てていくことができるように、学校、教科において育成を目指す資質・能力を明確にしたうえで、（第2章：Plan参照）、実践し、学校全体で評価・改善していきましょう。

#### カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことであり、具体的には、以下の三つの側面に整理できます。

- ①生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を行っていくこと
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

これからの時代に求められる資質・能力の育成を実現するためには、教育課程全体と各教科等を十分につなげて考えることが重要です。そのためには、各教員が教育課程全体を俯瞰し、他教科等や他学年で扱う内容も視野に置き、それらと関連を図って体系的な指導を行うことが大切です。



生徒の側からすると、教科等や学年を貫いて重要な概念を獲得したり、自ら学習や経験を統合し能力を発揮し高めたりすることができるような教育課程であることが望ましいでしょう。そのような教育課程を編成・実施できるようにする視点から、カリキュラム・マネジメントを進めていきましょう。



## 授業づくりのためのチェックリスト

皆さんの授業づくりに、教科での話し合い、校内研修での協議の視点などにご活用ください。

# Plan

# Do

- 学校教育目標で目指している生徒の姿を、すべての教員が具体的にイメージすることができる。  
→ P.8
- 学校教育目標に基づき、教科で身に付ける資質・能力を明確にし、共有している。  
→ P.8
- 生徒の実態把握は多面的に行っている。  
→ P.8
- 単元を通してどのような資質・能力を育成するかを踏まえ、年間指導計画等に反映している。  
→ P.9
- 学習の系統性を明確に把握し、指導計画に反映している。  
→ P.9
- 指導計画は、単元（題材）、1時間の授業のねらいが明確になっている。  
→ P.9
- 教材の価値を捉え、深い学びにつながる教材研究ができている。  
→ P.10
- 生徒に付けさせたい力が付いているかどうかを評価する方法を計画している。  
→ P.9・39

- 生徒に付けさせたい力を明確にした学習目標を設定している。  
→ P.8・14
- 単元の最初の授業や本時の導入で、学習目標を把握させ、学習の見通しをもたせている。  
→ P.14・15・21・35
- 授業の流れを視覚的に示し、生徒が見通しをもちながら学習に取り組めるようにしている。  
→ P.15・21・35
- 学習目標に応じて、教師が教える場面と生徒に思考させる場面を工夫している。  
→ P.17・21
- 教師が教える場面では、生徒の理解を確認しながら進めている。  
→ P.17・21
- 生徒に思考させる場面では、生徒が思考しやすくするための手立てを工夫している。  
→ P.18・19・20・21
- 単元（題材）の区切りの時や本時のまとめで、生徒自身が学びを振り返られるようにしている。  
→ P.14・21
- 生徒指導の三機能を生かした授業づくりを心掛けている。  
→ P.30・31
- ユニバーサルデザインに基づき、すべての生徒が分かり、できるようになる授業づくりを心掛けている。  
→ P.32・33
- 生徒の理解を助けるような構造的な板書になっている。  
→ P.34・35

# Check

# Action

- 生徒の学習状況を評価するために、評価の観点が明確になっている。  
→ P.9・38・39
- 生徒の学習状況を、パフォーマンス課題などを用いて、多面的・多角的に評価している。  
→ P.9・39
- 他教員と授業を参観し合っている。  
→ P.40
- 授業を参観できるような校内体制を組んでいる。  
→ P.40・46
- 授業を参観する視点を明確に設定している。  
→ P.40
- 授業参観後に振り返る場を設定している。  
→ P.41・42
- 生徒の学習状況や他教員からの授業評価等を活用し、指導方法の課題を分析している。  
→ P.41・42

- 指導方法の課題を改善するために、研修会や他校の実践研究等から積極的に学んでいる。  
→ P.44
- 今日的な教育の動向等に関心を持ち、専門性の向上に努めている。  
→ P.44
- 教科で育成する力について、共有している。  
→ P.8・45
- 生徒に力が付けられるよう、具体的な指導の手立てについて、教科会で検討している。  
→ P.45
- 教科会を定期的に開催できるよう、時間割調整を行っている。  
→ P.46
- 教科会での検討項目について、教員間で共通理解をしている。  
→ P.46
- 他教科の教員とともに指導方法の工夫・改善ができるような場を設定している。  
→ P.46・48
- 他教科の教員で授業づくりを検討する際の視点を明確にしている。  
→ P.46
- 学校教育目標で目指す生徒の育成につながる授業づくりに取り組む校内体制が構築されている。  
→ P.46・48



«引用・参考文献等» \*これらの資料等も授業づくりの際の参考にしてください。

【文部科学省作成資料】

- ・「高等学校学習指導要領」（文部科学省 平成21年3月）
- ・「高等学校学習指導要領解説総則編」（文部科学省 平成21年7月）
- ・「高等学校学習指導要領各教科等解説」（文部科学省 平成21年）
- ・「中学校学習指導要領」（文部科学省 平成29年3月）
- ・「中学校学習指導要領解説総則編」（文部科学省 平成29年7月）
- ・「評価規準の作成 評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）」  
（国立教育政策研究所 平成24年7月）
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）」（文部科学省 平成25年7月）
- ・「生徒指導提要」（文部科学省 平成22年3月）
- ・「中央教育審議会 初等中等教育分科会 高等学校教育部会」（文部科学省 第14回資料）
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等  
（について（答申）」（中央教育審議会）
- ・「キャリア教育を創る」（文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成23年11月）

【高知県教育委員会作成資料】

- ・「平成29年度 若年教員研修のしおり 子どもと生きる」（高知県教育センター 平成29年4月）
- ・「高知県授業づくりBasicガイドブック－平成29年度改定版－」（高知県教育委員会 平成29年10月）
- ・「生徒指導ハンドブック」（高知県教育委員会 平成26年3月）
- ・「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりガイドブック」（高知県教育委員会 平成25年）
- ・「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりガイドブック－実践事例集－」  
（高知県教育委員会 平成27年3月）

【教育書等】

- ・「考えるってこういうことか！『思考ツール』の授業」田村学・黒上晴夫（小学館 2015年7月）
- ・「学ぶ意欲とスキルを育てる」市川伸一（小学館 2004年4月）
- ・「『教えて考えさせる授業』の挑戦－学ぶ意欲と深い理解を育む授業デザイン－」市川伸一  
（明治図書 2013年7月）
- ・「カリキュラムマネジメント・ハンドブック」田村知子他（ぎょうせい 平成28年6月）
- ・「野口流 授業の作法」野口芳宏（学陽書房 2008年4月）



高知県授業づくりBasicガイドブック - 高校授業編 -

平成30年3月

<編集・発行>

高知県教育委員会

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号

